

## 2 「少子化と就労女性の支援ネットワーク」研究報告書

## 目 次

1	調査研究の目的と方法	37
2	世田谷区と少子化	40
3	基本属性とプロフィール	47
4	調査・分析結果 就業形態と子育て	52
5	調査・分析結果 サポートネットワーク	59
6	調査・分析結果 世田谷区における育児サービスの認知と利用	62
7	まとめ	76

## 1 研究の目的と方法

### 1.1 目的

本研究では、世田谷区における少子化に関する問題、とりわけ育児期にある女性の生活と少子化との関係を明らかにしようとしている。

1970年代の半ばに人口置換水準を割り込んだわが国の合計特殊出生率<sup>1</sup>は、ゆるやかなカーブを描きながら下降を続けてきた<sup>2</sup>。特に1990年には、前年(1989)の数値がそれまでの最低だったひのえうまの年(1966)の数値を下回る1.57となったことが判明し、「1.57ショック」として広く知られるところとなる。この時期から少子化は政策課題としてクローズアップされ、政府は1994年「エンゼルプラン」にはじまる少子化対策を打ち出した。しかしその後も少子化傾向は収まる気配をみせず、2003年には少子化対策基本法および次世代育成支援対策推進法が制定される。さらに2008年には内閣府に社会保障国民会議が設置され、同年11月の最終報告において、少子化対策は「『待ったなし』の課題」であり「『仕事と生活の調和の実現』と『子育て支援の社会的基盤の拡充』を車の両輪として取り組む」(社会保障国民会議2008:9)<sup>3</sup>ことが示された。

この少子化の原因は、婚外子のきわめて少ない日本では独身者の結婚行動の変化と夫婦の出生力の低下という二点に求められる。さらに結婚行動の変化は、結婚しない人の増加—未婚化—と、結婚時期の先延ばし—晩婚化—とに分解されうる。少子化はこの未婚化・晩婚化によって説明される部分が大きいものの、もう一方の要因である夫婦間の出生力の低下、すなわち少産化の影響も無視することはできない(岩澤2002<sup>4</sup>、山口2004<sup>5</sup>)。この少産化の背景には多産多死の時代から少産少死の時代へというマクロな人口学的変化があることは疑いを容れないが、生殖技術の進歩によって子どもという存在が「生まれるもの」から「つくるもの」となったミクロな変化の結果としても理解されよう(柏木2001)<sup>6</sup>。この変化は少ない子どもを大切に育てるという現在の日本に広く見られる態度を一般に定着させることにもなった。

この「少ない子どもを大切に育てる」傾向は、心理的・経済的両面から少産化と深いつ

---

<sup>1</sup> 15～49歳の女性の年齢別出生率を合計した数値。「女性が生涯に産む子ども数」と表現されることもある。

<sup>2</sup> 2005年に1.26と過去最低を記録したが、2006年には1.32、2007年には1.34と若干の上昇をみせている。国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集2009』

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2009.asp?chap=0>

(上記URLより「IV出生・家族計画」表4-3参照)

<sup>3</sup> 社会保障国民会議, 2008, 『最終報告』内閣府。

<sup>4</sup> 岩澤美帆, 2002, 「近年の期間TFR変動における結婚行動および夫婦の出生行動の変化の寄与について」『人口問題研究』58(3):15-44。

<sup>5</sup> 山口一男, 2004, 「少子化の決定要因と対策について: 夫の役割、職場の役割、政府の役割、社会の役割」独立行政法人経済産業研究所(RIETI)ディスカッションペーパー04-J-045

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/04j045.pdf>

<sup>6</sup> 柏木恵子, 2001, 『子どもという価値』中央公論社。

ながりをもつ。心理的には、親、ことに母親に対し、育児責任者としてのプレッシャーを強める結果がもたらされた（広田 1999）<sup>7</sup>。経済的な負担という面からみると、子ども一人あたりの教育費は「幼稚園（2年保育）から高等学校まですべて公立で大学（4年制）は自宅から国立に通うとするならば、総額で951万円を要する。もし幼稚園（3年保育）から高等学校まですべて私立で、下宿して私立学校へ通うとするならば、2031万円もの費用がかかる」（滋野 2004: 10）<sup>8</sup>。しかもこの教育費は下方硬直性をもつ、すなわち所得の減少などで家計が苦しくなった場合でも低下しにくい傾向にあるとされ、経済的な要因による産み控えが指摘されている（滋野 2008: 10-11）。

こうした物心両面のコストが人びとの出生行動を制限していることは想像に難くない。国民の希望通りに出生行動が行われたとすると、推計される合計特殊出生率は1.75にまで上昇するとみられており（内閣府 2008: 35）<sup>9</sup>、夫婦が実際に希望する子ども数は低下傾向にあるものの現在も2.50前後を示して人口置換水準を上回ってさえいる（国立社会保障・人口問題研究所: 7）<sup>10</sup>。少産化に関しては人びとが希望通りに子どもを持ってないことを問題とすべきであろう。

このように、子どもをもつコストが心理的経済的にかつてない高まりを見せている現在、その最前線にさらされている育児中の女性がおかれている状況を把握する必要がある。そして適切な支援や環境整備などの対策が検討され、育児にかかる負担の軽減がはかれることは、「東京一子育てしやすいまち」の実現を目指している世田谷区にとって間違いなく重要な課題であるといえる。

こうして育児期にある女性の生活と少子化との関係をとらえる必要がたちあらわれてくる。特に、女性の社会進出と育児についての研究が行われなければならない。社会保障国民会議の最終報告では、少子化対策の基本は「就労と結婚・出産・子育ての『二者択一構造』の解決を通じた『希望と現実の乖離』の解消」（社会保障国民会議 2008: 9）にあるとする。「少子化の直接的な原因が未婚化・晩婚化にあることは明白である」（安河内 2005: 1）<sup>11</sup>が、「既婚女性の就業（就業継続）と少子化との関連については、就業（就業継続）が少子化に与える直接的な効果について見定めておく必要がある」（安河内 2005: 1）。はたして世田谷区において、既婚女性の就業が少子化に与える効果とはいかようなものであろうか。そしてまた、既婚女性の育児環境はどのようになっているのであろうか。このような関心のもとに、本研究所では2007年11月に九州工業大学と共同で「少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査」を実施した。

<sup>7</sup> 広田照幸, 1999, 『日本人のしつけは衰退したか』講談社。

<sup>8</sup> 滋野由紀子, 2008, 「少子高齢化」玉井金五・久本憲夫編『社会政策Ⅱ 少子高齢化と社会政策』法律文化社: 1-22。

<sup>9</sup> 『少子化社会白書』2008, 内閣府。

<sup>10</sup> 『第13回出生動向基本調査 結果の概要』国立社会保障・人口問題研究所ホームページ <http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13/doukou13.pdf>

<sup>11</sup> 安河内恵子, 2005, 「科学研究費申請書」。

## 1.2 調査の概要

以下に調査の概要を示す。

- ① 調査対象者：理論母集団は、世田谷区在住で、平成7年4月2日以降を出生日とする子どもを持つ女性。そのうち3000人を対象者とする。
- ② 調査方法：住民基本台帳を用いた系統抽出法により3000サンプルを無作為抽出し、無記名調査票を郵送をもって送付し、回収する。
- ③ 調査時期：2007年11月9日～26日 調査票発送、リマインダー（協力再確認の手紙）発送、締め切り ※ただし、締め切り日以降到着分も、有効回答票に含めた。
- ④ 回収率

調査対象者	小学生以下の子どもを持つ区内在住の女性3000人	
回収票数	1883票	(回収率 62.7%)
有効票数	1862票	(有効回収率 62.1%)

さらに本研究では、九州工業大学によって2003年に福岡市と徳島市で実施された、同様の質問項目をもつ調査データ<sup>12</sup>との比較を通して世田谷区における育児期女性の生活と育児環境について検討してゆくことにしたい。以下、本研究ではこれら両調査データの比較・分析を通して得られた知見をもとに、世田谷区における育児期女性の生活について、1. 就労と子育て、2. サポートネットワークの構成、3. 子育て支援サービスの認知と利用という三点を中心に考察をすすめていくこととする。

---

<sup>12</sup>「女性の就業とサポートネットワークに関する調査」科学研究費補助金調査研究（研究代表者：九州工業大学・安河内恵子）。福岡市と徳島市に居住する30～49歳の女性（系統抽出による各市2200人）を対象に、2003年11月に郵送法にて実施された。本研究においては、このうち12歳以下の子どもをもつサンプルに限定して比較を行った。調査全体の有効回収票・有効回収率は、福岡市754票、34.3%、徳島市874票、39.7%。ただし12歳以下の子どもを持つ女性に限定すると、有効票は、福岡市317票、徳島市381票となる。

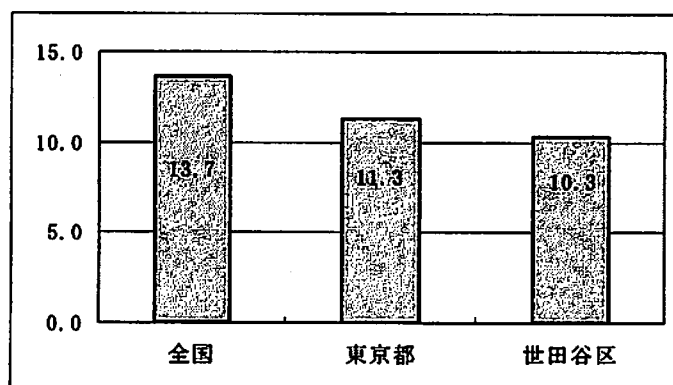
## 2 世田谷区と少子化

はじめに、基礎データから世田谷区における少子化の現状について確認してみよう。先に述べた通り、少子化の原因は未婚化・晩婚化と少産化であるとされる。平成17年の国勢調査結果から、世田谷区における未婚化や晩婚化、また少産化の趨勢をたしかめてみたい。

### 2.1 年齢構成

まずは年齢構成から少子化の現況をさぐってみたい。世田谷区の人口に占める年少者（15歳未満）の割合を、全国・東京都と比較したものが下の図である。全国平均13.7%、東京都11.3%に対し、世田谷区で15歳以下の人口が全人口に占める割合は10.3%にすぎない。人口比から見た場合、全国・東京都いずれと比べても子どもの少ない地区であるといえる。

年少人口比率



### 2.2 年代別未婚率と生涯未婚率

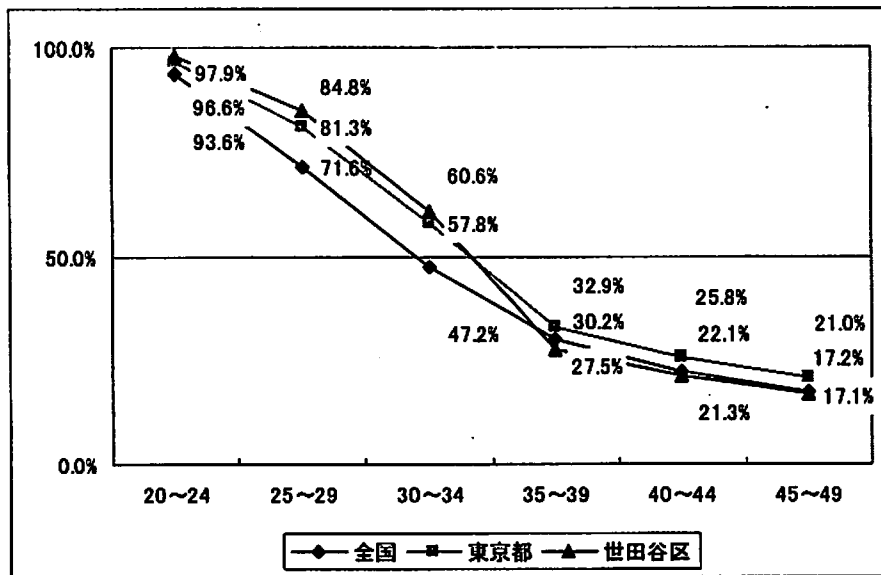
次に、世田谷区における結婚行動をみてみよう。少子化には晩婚化や未婚化の影響が大きいといわれる。世田谷区ではどのような状況になっているであろうか。年代別の未婚率と生涯未婚率<sup>13</sup>を確認してみたい。年齢階級（5歳）別に、20歳から49歳までの未婚率を示した。

最初に男性をみてみよう。全国平均と比較した場合、東京都と同様に20代での未婚率が高い。20～24歳では90%以上が未婚であり全国的な違いはさほど見られないが、20代後半でやや差が生まれてくる。全国では71.3%まで下がるのに対し東京都では81.3%、世田谷区では84.8%にとどまっている。さらに30代前半を見てみると、全国平均では47.2%と過半数が結婚を経験しているが、東京都では57.8%、世田谷区では60.6%と6割以上が未婚である。

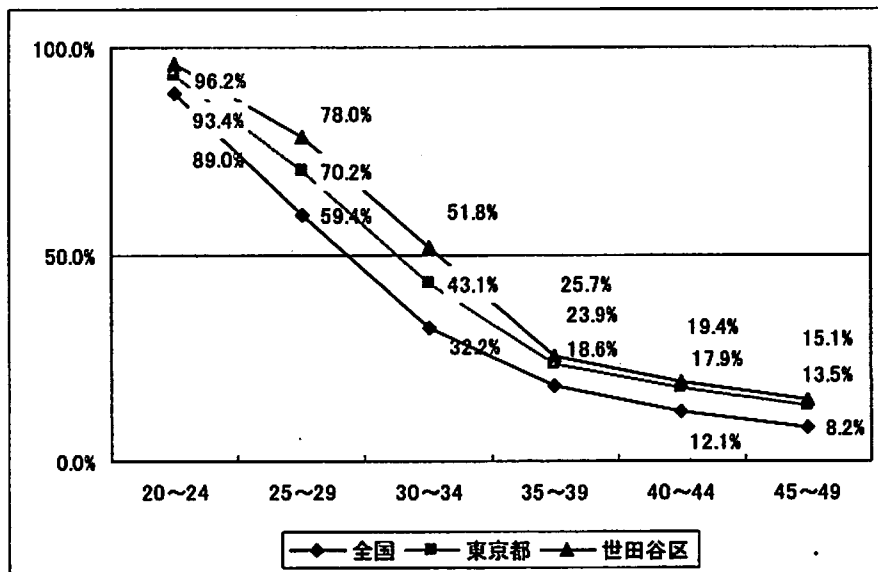
<sup>13</sup> 50歳時点での未婚率。ここでは45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均値をとったものを示した。

ところが、30代後半で変化がおこる。東京都や全国を逆転し、一気に未婚率が低下している。以後45～49歳まで、全国平均や東京都全体よりも未婚率が低い。家族形成期に転入してくる人の多さをうかがわせる。

年齢階級別未婚率：男性



年齢階級別未婚率：女性

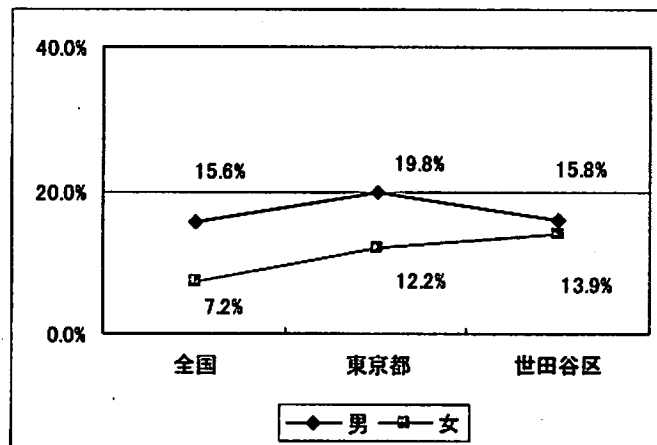


一方、女性の場合はこうした逆転は起こらず、常に全国平均・東京都平均ともに未婚率で上回っている。また 20 代後半から 30 代前半にかけての未婚率の高さが際立っているといえよう。この年代では全国平均と 20% 近くの差があり、東京都の平均も 7~8% ほど上回っている。世田谷区においては、30 代前半の女性は過半数が未婚となっている。そして、30 代後半からは男性の場合と同様に未婚率が低下し、ほぼ東京都平均と同様の推移をみせるようになる。両性とも、晩婚化の傾向がはっきりと現れていた。世田谷区においては結婚時期の中心は 30 代半ばごろにあるといえる。

では、少子化につながるもう一つの結婚行動の変化である、結婚しない人の増加、すなわち未婚化についてはどうだろうか。50 歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれ、生涯結婚しない割合を示す数値として使用される。ここでも全国・東京都と比較してみよう。

男性では 15.8% と全国平均の 15.6% よりわずかに高いが、東京都平均の 19.8% を下回る。一方女性では、全国平均の 7.2% や東京都の 12.2% よりもさらに高く、13.9% となっている。女性に関してはかなり未婚化が進んでいるということが出来る。

生涯未婚率の比較



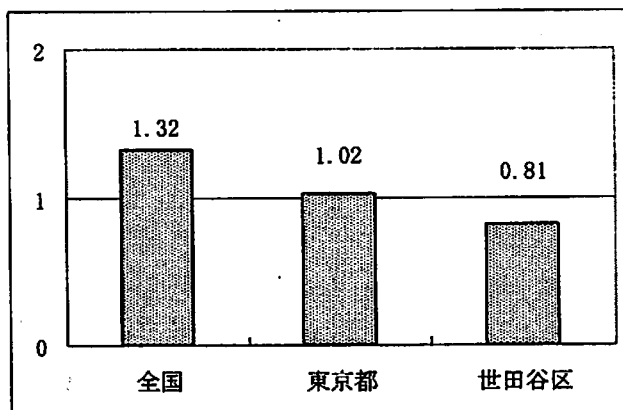
### 2.3 期間合計特殊出生率

つづいて、出生行動についてみてゆこう。期間合計特殊出生率をもちいて、世田谷区において女性が生涯に産むと予想される一人当たり子ども数の推計を全国や東京と比較してみたい。2006 年の確定値からの比較では、全国で 1.32 となったのに対し、東京都では 1.02、世田谷区では 0.81 (世田谷区 2008: 7)<sup>14</sup> と 1 を割り込んでいる。

<sup>14</sup> 『平成 20 年度版 世田谷の地域保健』世田谷区。



合計特殊出生率（2006年）



この合計特殊出生率について全国の自治体別順位をみると、目黒区の0.74が最も低い。世田谷区は全国でも下から11番目にあたり、全国的に見ても少産化傾向が進んでいる地域であることがわかる。

合計特殊出生率ランキング低位20

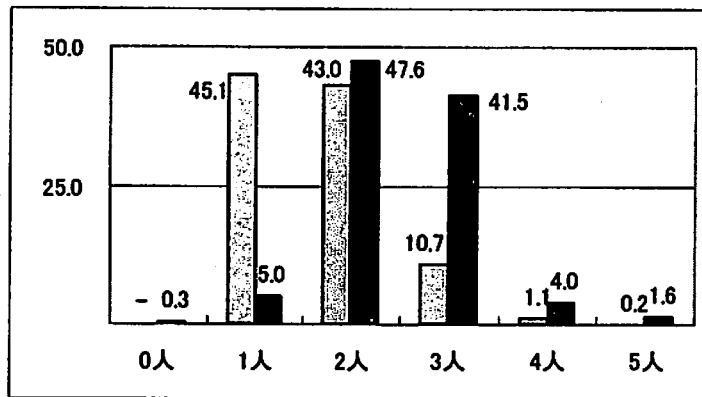
	都道府県	市区町村	合計特殊出生率
1	東京都	目黒区	0.74
2	京都府	京都市 東山区	0.75
3	東京都	中野区	0.75
4	東京都	渋谷区	0.75
5	福岡県	福岡市 中央区	0.75
6	東京都	新宿区	0.76
7	東京都	杉並区	0.78
8	大阪府	豊能郡 豊能町	0.78
9	東京都	文京区	0.80
10	東京都	武蔵野市	0.81
11	東京都	世田谷区	0.81
12	北海道	札幌市 中央区	0.81
13	東京都	豊島区	0.84
14	京都府	京都市 上京区	0.84
15	京都府	京都市 中京区	0.85
16	東京都	品川区	0.87
17	愛知県	名古屋市 中区	0.89
18	東京都	千代田区	0.89
19	東京都	港区	0.90
20	大阪府	大阪市 中央区	0.91

厚生労働省「平成15年～平成19年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」より抜粋

## 2.4 子ども数と希望子ども数

少子化の一因である少産化の傾向は世田谷区でもはっきりと現れていた。この少産化の人々が希望した結果であるのかどうか、確認する必要がある。本研究所の調査データを用いて、現在の子ども数と希望する子ども数を比較してみたものが下のグラフである。

現在の子ども数と理想の子ども数

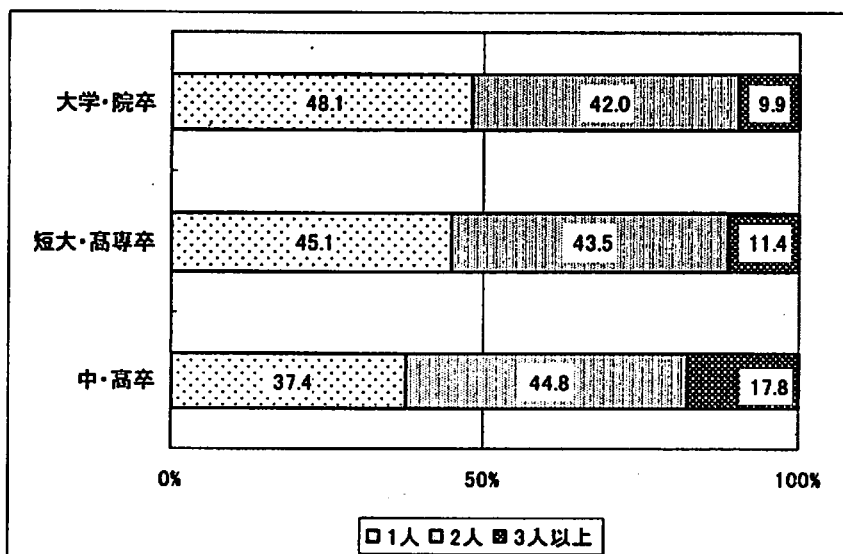


一見してわかるように、希望子ども数は常に現在の子ども数よりも多い<sup>15</sup>。現在の子ども数では「一人」の45.1%と「二人」の43.0%で全体の90%近くを占め、三人以上の子がいる家庭は全体の10%強にとどまる。ところが、希望する子ども数では47.6%と半数近くが二人を希望し、また41.5%の人が子どもは3人欲しいと回答している。人びとはもっと子どもを産みたいと思っているのだ。この、希望と現実の子ども数の乖離を埋めていくことは重要な少子化対策の一つになりえるといえよう。

## 2.5 学歴・職業・世帯収入別子ども数

では、子ども数は個人や家庭の条件などによってどのように規定されているのだろうか。基本属性ごとに、子ども数を見てみよう。なおここでは子ども数3、4、5人は便宜的にすべて「3人以上」としている。

学歴別子ども数

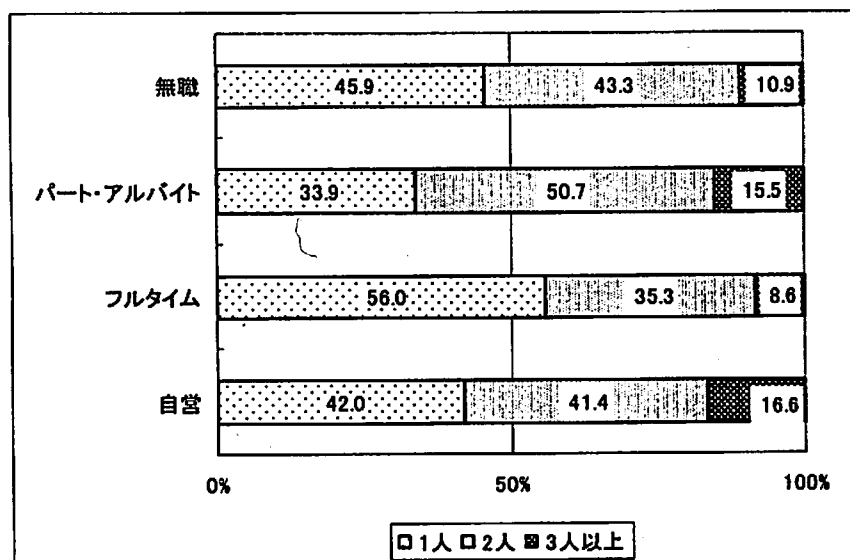


<sup>15</sup> 子ども数は実数値。理想子ども数については「5人以上」で1つのカテゴリーとなる。

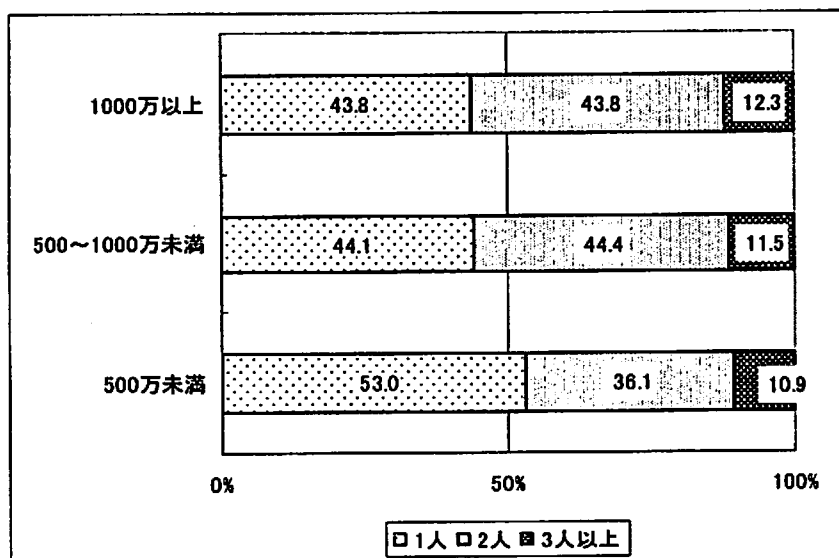
就労形態別では、母親がフルタイム労働に従事している場合に一人っ子が多くなる。逆に、母親がパートタイム・アルバイトや派遣社員などで働いている家庭では、子ども数2人が過半数を超えていた。また、自営業とパートタイムの場合は3人以上の子どもがいる家庭が15%を超えている。

世帯年収別では、500万円未満で一人っ子が多い傾向がみられるものの、統計的には有意でなかった。

就労形態別子ども数



世帯年収別子ども数



## 2.6 希望子ども数のクロス

では、条件によって希望する子ども数にも差があるのだろうか。実際の子ども数と希望する子ども数を、先に検討した属性ごとにクロス表に示した。

実際の子ども数に関しては学歴・職業が統計的に有意である一方、希望する子ども数についてはいずれの属性も有意でなかった。つまり子どもが欲しくない人がフルタイムで働いているのではなく、フルタイムで働いている人はやむなく子ども数を抑えているということである。

この女性の就業と育児における希望と現実の乖離を埋めることは、少産化に対して有効な政策的アプローチとなりえるであろう。次章以降では、調査データの分析を通して女性の就業と育児を取り囲む世田谷区の現状について、より詳細に分析してゆくことにしたい。

属性別にみた子ども数と希望子ども数のクロス表

	子ども数			合計	
	1人 %	2人 %	3人以上 %	%	n
本人学歴					
中・高卒	37.4	44.8	17.8	100.0	326
短大・高専卒	45.1	43.5	11.4	100.0	719
大学・院卒	48.1	42.0	9.9	100.0	802
**					
本人職業					
自営	42.0	41.4	16.6	100.0	157
フルタイム	56.0	35.3	8.6	100.0	348
パート・アルバイト	33.9	50.7	15.5	100.0	381
無職	45.9	43.3	10.9	100.0	966
***					
世帯年収					
500万未満	53.0	36.1	10.9	100.0	230
500～1000万未満	44.1	44.4	11.5	100.0	801
1000万以上	43.8	43.8	12.3	100.0	778
n. s.					

\*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

	希望子ども数				合計	
	0人 %	1人 %	2人 %	3人以上 %	%	n
本人学歴						
中・高卒	0.3	5.3	44.9	49.5	100.0	321
短大・高専卒	0.1	5.0	49.9	44.9	100.0	713
大学・院卒	0.5	5.0	46.7	47.8	100.0	795
n. s.						
本人職業						
自営	0.6	5.8	46.8	46.8	100.0	156
フルタイム	0.6	3.8	47.5	48.1	100.0	345
パート・アルバイト	-	5.1	45.1	49.9	100.0	375
無職	0.3	5.4	48.9	45.4	100.0	958
n. s.						
世帯年収						
500万未満	-	4.0	43.2	52.9	100.0	227
500～1000万未満	0.3	5.4	48.7	45.7	100.0	795
1000万以上	0.4	5.3	47.2	47.1	100.0	769
n. s.						

### 3 基本的属性とプロフィール

世田谷区における育児期女性の現況について、調査データからもう少し詳しく確認してみよう。社会経済的な背景に関しては、世田谷区という地域的条件を明らかにするため他都市との比較を行いながら検討を行う。

#### 3.1 社会経済的背景—他都市との比較

まずは福岡・徳島調査の結果と比較しながら、世田谷区における育児期女性の社会経済的特性について記述してみたい。世田谷区は、都内有数の高級住宅地を含む地域であり、社会階層的には高い地区に位置づけられる。その現状を、世帯収入（年収）、対象者本人の学歴、夫の学歴、夫の職業状況からみていこう。世帯収入については、対象者本人の収入と夫の収入の質問に対する回答について、各カテゴリーの中央値を取って合計し作成した合成変数である。そのため実際の値とは異なるが、各世帯の経済状況のたまかな傾向を知ることではできよう。

表1から明らかなように、世帯収入の最頻値は600万～800万円、次が1,000万～1,200万円、3番目には800万～1,000万円が続いており、きわめて高い水準にある。その結果、世帯収入が1,200万円以上を超える層は28.4%を占め、平均世帯収入は984.1万円と、1,000万円に迫る高額となった。福岡・徳島調査では選択肢のカテゴリーが若干異なっているが、福岡市の世帯収入1,200万円以上層は17.7%、平均世帯収入は766.3万円、徳島市では、それぞれ15.1%、640.5万円となっていた。世田谷区の対象者の世帯収入の高さが際立っている。

対象者の世帯年収

世帯年収	人数	比率
200万円未満	11	0.60%
200万～400万円未満	138	8.00%
400万～600万円未満	241	14.00%
600万～800万円未満	303	17.60%
800万～1000万円未満	256	14.80%
1000万～1200万円未満	286	16.60%
1200万～1500万円未満	225	13.00%
1500万～1800万円未満	84	4.90%
1800万～2000万円未満	125	7.20%
2000万～2500万円未満	40	2.30%
2500万円以上	16	1.00%
合計	1725	100.00%

平均年収 984.1万円

次に、対象者本人の学歴、夫の学歴をみてみよう。本人の最終学歴は、大学・大学院卒が43.1%、短大・高専卒が38.7%であり、短大・高専以上の学歴を持つ者は81.8%にも達している。福岡・徳島がいずれも50%を超える程度であることと比較すると、きわめて高学歴であることが見て取れる。また、夫の学歴は、妻以上に高い。大学・大学院卒だけで全体の74.8%を占めている。福岡・徳島と比較したとき、夫婦ともに高学歴層が多いことがわかる。

本人の学歴

本人	世田谷 福岡 徳島 (%)		
	世田谷	福岡	徳島
中卒	1	3.5	2.1
高卒	16.5	44.2	39.4
短大・高専卒	38.7	35	28.3
大学・大学院卒	43.1	17.4	29.9
不明	0.7	0	0.3
合計	100	100	100
人数	1862	317	381

配偶者の学歴

配偶者	世田谷 福岡 徳島 (%)		
	世田谷	福岡	徳島
中卒	1.1	2.4	1.4
高卒	14.3	39.2	46.8
短大・高専卒	8.8	6.9	4.1
大学・大学院卒	74.8	53.1	47.4
不明	1	0.3	0.3
合計	100	100	100
人数	1775	288	365

本人の就業状況では、フルタイム・パートタイムとも福岡・徳島に比べて就業率が低い。現在無職のいわゆる専業主婦がもっとも多い結果となった。夫の職種では専門・管理・事務職といったホワイトカラー職種が多く、特に管理職の多さが目をひく。本人は無職が多数派であるにもかかわらず、先に見たように世帯収入の平均値が高いことを合わせて考えると、配偶者の所得が高い傾向がうかがえよう。

本人の職業

本人職業	世田谷 福岡 徳島 (%)		
	世田谷	福岡	徳島
自営業・家族従業員	8.5	10.7	13.1
会社経営者・役員	0.5	0	2.9
フルタイム雇用者	18.2	15.8	26.8
アルバイト・パート・派遣	20.5	27.8	22.8
無職	51.9	45.1	33.3
不明	0.4	0.6	1
合計	100	100	100
人数	1862	317	381

配偶者職種

配偶者職種	世田谷 福岡 徳島 (%)		
	世田谷	福岡	徳島
専門職	24.8	24.3	23
管理職	32.8	11.1	10.1
事務職	16.8	15.3	15.3
販売職	9.4	20.8	15.9
生産工程・労務職	6	17	19.2
サービス職	6.5	7.6	10.4
保安職	1.4	1.7	2.2
農林漁業	0.2	0.3	2.2
無職	0.7	1	0.8
不明	1.9	0.7	0.8
合計	100	100	100
人数	1775	288	365

### 3.2 家族形態

続いて家族形態についてみていきたい。夫婦ともに年齢は高めであるといえる。末子年齢の平均が5.05歳であるにもかかわらず、母親本人の平均年齢は38.1歳であり、20代の母親は全体のわずか5.5%であった。これは前述のとおり、夫婦ともに高学歴であることが原因だと考えられる。子どもの数では、2人以内の世帯が88.1%にのぼり、平均は1.62人であった。世帯構成についてみてみると、夫婦と子どもの世帯が86.2%、三世帯同居は8.8%であった。母子世帯は全体の約4%となっている。

本人年齢

20～24歳	7人	0.4%
25～29歳	95人	5.1%
30～34歳	398人	21.5%
35～39歳	615人	33.3%
40～44歳	518人	28.0%
45～49歳	186人	10.1%
50歳以上	30人	1.6%
有効回答数	1849人	100.0%
無回答	13人	
合計	1862人	
平均年齢	38.1歳	

配偶者の年齢

20～24歳	2人	0.1%
25～29歳	57人	3.2%
30～34歳	268人	15.2%
35～39歳	461人	26.1%
40～44歳	538人	30.5%
45～49歳	313人	17.7%
50～54歳	96人	5.4%
55～59歳	24人	1.4%
60歳以上	6人	0.3%
有効回答数	1765人	100.0%
配偶者なし	87人	
無回答	10人	
合計	1862人	
平均年齢	40.4歳	

子ども人数

1人	838人	45.1%
2人	800人	43.0%
3人	199人	10.7%
4人	20人	1.1%
5人	3人	0.2%
有効回答数	1860人	100.0%
無回答	2人	
合計	1862人	
平均人数	1.68人	

末子年齢

0歳	205人	11.0%
1歳	239人	12.9%
2歳	183人	9.9%
3歳	151人	8.1%
4歳	133人	7.2%
5歳	144人	7.8%
6歳	134人	7.2%
7歳	116人	6.3%
8歳	117人	6.3%
9歳	118人	6.4%
10歳	118人	6.4%
11歳	114人	6.1%
12歳	84人	4.5%
有効回答数	1856人	100.0%
無回答	6人	
合計	1862人	
平均年齢	5.05歳	

世帯構成

夫婦と子どもの世帯	1600人	86.2%
母子世帯	77人	4.1%
3世代世帯	163人	8.8%
その他	16人	0.9%
有効回答数	1856人	100%
不詳	6人	
合計	1862人	

続いて居住歴を確認してみたい。居住年数10年未満が56.6%となっている。2008年6月に区内20歳以上の区民2000人を対象に行われた「世田谷区民意調査2008」では10年未満の居住年数が26.9%となる。両者を比較すると、子育て世帯は区内に在住してから比較の日が浅い人々であるといえることができる。

また中学時代から区内に居住している人々は 2 割にとどまり、区外出身の母親が約 79.2%と多い。居住形態では、一戸建て持ち家をもっとも多く、続いて分譲マンションが多く、両者を合わせると 6 割弱にのぼる。こうしたことから、子育て期の安定した居住生活の場として世田谷区を選び、区内に住居を購入し、転入している傾向が強いと考えられる。しかしながら、世帯年収の平均が 900 万円を超える一方で、世帯収入が 400 万円に満たない層も全体の 8.6%を占めていることも見てとれる。

区内居住年数 中学卒業時居住地 居住形態

問2 区内居住年数	%	n
5年未満	30.6	566
5～10年未満	26.0	481
10～15年未満	17.5	324
15～20年未満	5.9	110
20～25年未満	3.9	73
25年以上	16.1	298
合計	100.0	1852

問3(1) 中学卒業時居住地	%	n
現住所	5.7	105
15分以内	9.1	169
15～30分未満	8.1	150
30分～1時間未満	16.9	313
1時間～2時間未満	22.4	414
2時間以上	37.8	698
合計	100.0	1849

問4 居住形態	%	n
一戸建て持ち家	35.9	665
一戸建て借家	5.1	94
分譲マンション	22.6	418
賃貸マンション	17.9	331
都営・区営住宅	2.2	41
社宅・官舎・寮	8.9	165
アパート	6.2	115
その他	1.2	23
合計	100.0	1852

### 3.3 母子家庭

今回の調査分析において母子世帯は 77 ケースあった。その他の世帯と比較した場合、仕事や収入、ネットワークサイズ、ストレスなどに関していくつかの差異がみられる。

母子家庭

平均値	世帯年収	サポートネットワークサイズ	フルタイム就労率	パートタイム就労率	満足度(生活全般)	ストレス度(教育上の心配)	n
母子世帯	289.8万円	4.44人	35.10%	41.60%	2.40	2.62	77
その他	964.3万円	5.78人	38.40%	40.70%	2.94	3.04	1785
	***	**	***	***	***	**	

\*\*\* p< 0.001, \*\* p<0.01

標本数が 77 と些少であり、ここで込み入った分析を行うことはできない。しかし、世田谷区での安心した子育てを支援していくためには、母子世帯、父子世帯のひとり親世帯への支援が重要な視点になる。平成 17 年の国勢調査によると末子 11 歳以下の母子世帯は 1,554 世帯であり、父子世帯を加えたひとり親世帯は更に多い。今後、ひとり親家庭の支援



策を検討するためにも、ひとり親家庭についての詳細な調査・分析が行われる必要があるといえる。

### 3.4 子育てに関する意識とストレス

ここで、実際の育児の局面における夫の参加度合いや、家事・育児に関する意識の分布を確認しておこう。買い物を除く掃除・洗濯・食事の支度・ごみ出しの四項目、いわゆる「家事」にあたる部分を「全くしない」夫がもっとも多数を占める。これは夫が通勤と労働に多くの時間をとられ、家事に振り向ける時間と余力が残っていないという、ワークライフ・バランスの視点から解釈されるべき状況であろう。妻本人の側からは「夫も家事や育児を平等に分担する方がよい」との設立に対して、肯定的な回答が 47.3%とニーズは高い。一方で、育児に対しては「子どもは三歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念した方がよい」との意見を 62.5%が支持していることから、育児に関する責任を母親自身が強く引き受けようとしている姿勢をうかがうことができる。

夫の家事参加

	毎日・毎回		週3~4回		週1~2回		月1~2回		全くしない		合計	
	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n
掃除	1.72	30	2.41	42	19.24	335	33.14	577	43.48	757	100.00	1741
洗濯	4.08	71	3.56	62	11.49	200	21.48	374	59.39	1034	100.00	1741
食事の支度	3.63	63	3.45	60	15.66	272	27.40	476	49.86	866	100.00	1737
ごみ出し	12.36	213	17.64	304	20.14	347	19.38	334	30.47	525	100.00	1723

性別役割分業意識

「次にあげる意見についてどうお考えですか？」	そう思う	まあそう思う	計
夫も家事や育児を平等に負担する方がよい	14.70%	32.60%	47.30%
子どもが三歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念した方がよい	30.60%	31.90%	62.50%

現在の生活満足度については「非常に満足」「まあまあ満足」をあわせると 80.3%となりおおむね高い。その一方で、家庭での負担感を感じる傾向が「時々あった」26.9%と「何度もあった」25.0%を足すと 51.9%となり、わずかながら半数を超える。

問20(a) 満足度 (生活全般)

非常に満足	まあまあ満足	やや不満	非常に不満	合計					
14.6	266	65.7	1200	16.8	306	3.0	54	100.0	1826

問19(a) ストレス経験 (家庭での負担感)

全くなかった	まれにあった	時々あった	何度もあった	合計					
20.3	369	27.8	506	26.9	489	25.0	454	100.0	1818

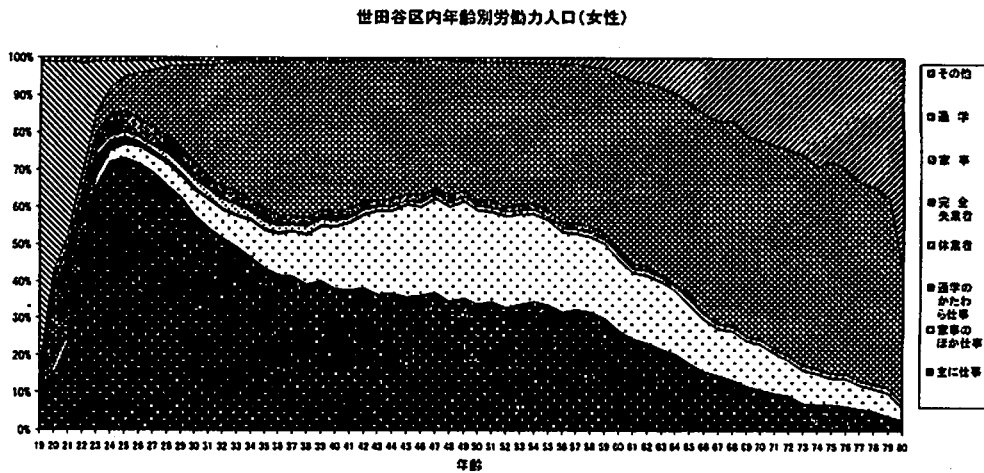
## 4 就業形態と子育て

仕事と子育ての両立は、子育て支援の大きなテーマとなっている。そこで、今回の調査結果と平成17年国勢調査を比較しながら、仕事と子育ての現状を明らかにしてみよう。ここでは世田谷区における女性の就業構造など、仕事と子育ての両立支援のための基本的なデータを用いた現状の把握が目的となる。

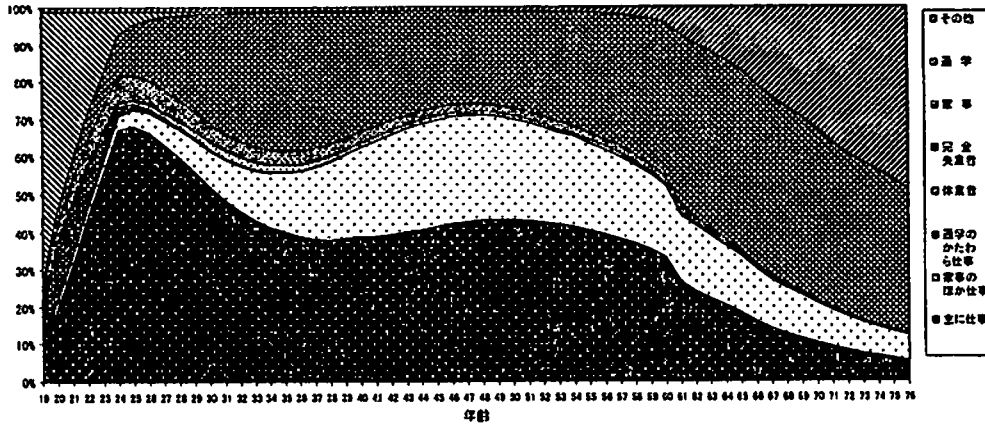
### 4.1 非M字型雇用パターン（子どもが大きくなってからの就業復帰が少ない。）

世田谷区の女性の労働力人口比率を年齢別グラフでみると、34、5歳あたりから全国と比較したとき家事専業の占める割合が顕著に多くなる。また、全国データでは、38歳ごろから「主に仕事」「家事のほか仕事」とともに増加傾向がみられ、M字型をなしているが、世田谷区では、特に「主に仕事」が年齢を経るごとに一貫して減少しており、結婚・出産で一度離職し、子どもが大きくなってから仕事に復帰するというM字型雇用パターンとは異なった就業構造を持っているといえる。

その傾向は、子を持つ母親に限定して、末子の年齢別に就業率をグラフ化した図で確認するとより明瞭である。世田谷区は全国平均に比べて末子0歳時の就業率は高く、出産時の離職率は低いが、その後の就業率は全国比より低水準で推移する。子どもが大きくなってからの就業復帰率が5割を超えるのは末子が11歳をこえた時期となり、全国の6～7歳の時期と比べて遅いなど、専業主婦になる傾向がある。

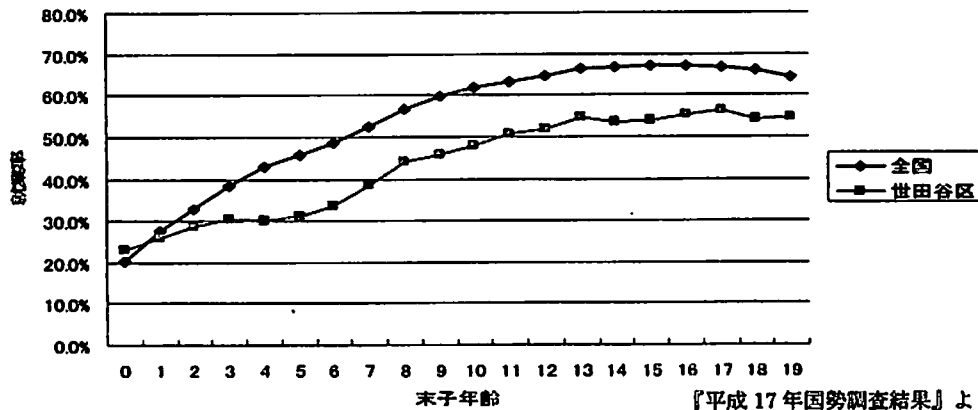


全国年齢別労働力人口(女性)



『平成 17 年国勢調査結果』より作成

末子年齢別母親の就業率



『平成 17 年国勢調査結果』より作成

## 4.2 就業状況と今後の希望

続いて就業状況と、今後の就業希望との関係を見てみよう。現在フルタイムで就業しているのは全体の 18.8%、パートタイムでの就業が 20.6%、現在無職 52.2%となっている。その専業主婦のうち就業を希望するものは 71.9% と多数を占める。フルタイム就労とパートタイム就労のいずれを希望するかという点については、フルタイム希望が全体の 11.1%であるのに対し、パートタイム・自営業希望では 60.8%となる。希望の面からは、6割以上がパートタイムでの就業もしくは自営業での就業を志向しているといえる。

母親の就業状況と就業希望

フルタイムで就業中	348 人	18.8 %	
パートタイム・アルバイトで就業中	381 人	20.6 %	
自営業で就業中	158 人	8.5 %	
現在無職	967 人	52.2 %	
合計	1854 人	100.0 %	
不詳	8 人		
総合計	1862 人		
			フルタイム希望 107 人 11.1%
			パートタイム・自営業希望 588 人 60.8%
			就業希望なし 272 人 28.1%

続いて、母親の就労の現状（フルタイム、パートタイム）と就業の希望状況を、地域別に確認してみよう。27 出張所の管区を単位に示したものが次の表である。それぞれの地区で明確な差異が生じている。これらは、児童人口分布に基本的な差があることに加え、住居の状況や交通事情など、育児や生活のありようが区内でも地域ごとにさまざまに異なっていることをあらわしている。また、各地域におけるネットワークの様態についても考慮にいれる余地があろう。

地区ごとにみた就労の現状と希望

		【現在】 フルタイム雇 用	【現在】 アルバイト・ パート・派遣 社員	【希望】 フルタイム雇 用を希望	【希望】 アルバイト・ パート・派遣 社員を希望
	※ 各 27 地区管内				
出張所	池尻まちづくり出張所	24.5	26.5	20.0	45.0
	太子堂出張所	37.5	12.5	-	85.7
	若林まちづくり出張所	25.0	25.0	-	45.5
	上町まちづくり出張所	9.9	20.6	9.3	50.0
	経堂出張所	20.5	22.7	18.8	62.5
	下馬まちづくり出張所	21.7	20.7	2.9	60.0
	上馬まちづくり出張所	23.2	21.4	16.7	55.6
	梅丘まちづくり出張所	7.7	30.8	9.1	54.5
	代沢まちづくり出張所	5.3	15.8	-	20.0
	新代田まちづくり出張所	21.2	24.2	-	71.4
	北沢出張所	10.5	10.5	9.1	36.4
	松原まちづくり出張所	26.5	22.4	7.7	46.2
	松沢まちづくり出張所	13.9	22.2	17.2	55.2
	奥沢まちづくり出張所	16.3	20.9	7.7	76.9
	九品仏まちづくり出張所	10.3	20.7	-	55.6
	等々力出張所	18.4	22.4	13.5	48.6
	上野毛まちづくり出張所	13.2	14.5	16.1	54.8
	用賀出張所	18.5	26.2	13.0	43.5
	深沢まちづくり出張所	17.3	16.3	15.6	44.4
	祖師谷まちづくり出張所	21.7	15.0	3.7	44.4
	成城出張所	5.7	15.1	14.8	51.9
	船橋まちづくり出張所	17.0	19.1	13.6	47.7
	喜多見まちづくり出張所	13.1	22.2	4.8	47.6
	砧まちづくり出張所	19.4	14.8	4.8	64.3
	上北沢まちづくり出張所	20.4	28.6	-	71.4
	上祖師谷まちづくり出張所	25.9	23.5	12.9	71.0
	烏山出張所	22.6	21.8	23.1	59.6
合計		18.2	20.7	11.4	54.1

#### 4.3 職種・労働時間・勤務先

職種は専門・管理や事務などのホワイトカラーが中心である<sup>16</sup>。しかし年収の面では大きな開きがある。年収のみを比較した場合、フルタイムの平均が 503 万円である一方で、パートタイムの平均が 96 万円と約 5 倍の差がある。税法上の配偶者特別控除の限度額、いわゆるパートタイムの「103 万の壁」が明白にあらわれている。

母親本人の雇用形態別 職種と年収

	職種					合計	N	本人年収平均	
	専門・管理	事務	販売・サービス	生産工程・労務				(万円)	N
フルタイム雇用	47.6%	40.5%	13.6%	1.2%	100.0%	348	503.1	346	
パートタイム雇用	30.8%	35.8%	30.3%	3.2%	100.0%	380	96.0	378	
自営業・家族従業者	45.2%	28.4%	24.5%	1.9%	100.0%	155	304.7	153	
全体	39.4%	35.9%	22.5%	2.2%	100.0%	883	293.0	877	

続いて労働時間と通勤についてみていこう。パートタイム雇用の母親の週労働時間は約 21 時間とフルタイム雇用の母親の半分程度であった。すべての対象者について全般的に通勤時間は長くはないが、フルタイム雇用の 7 割で区外に就業先がある。一方パートタイム雇用は 6 割が区内に職場をもつ。通勤時間は、パートタイム雇用と自営業が平均 24 分と自宅の近くで就業している一方、区外に通勤するものの多いフルタイム雇用でも平均 43.6 分に過ぎず、都心に近く公共交通機関が充実している世田谷区交通の便のよさがうかがえる。区内での雇用確保という観点からみると、フルタイム雇用とパートタイム雇用はそれぞれ約 3 割弱、約 6 割強と全く異なっている現状がわかる。

母親本人の雇用形態別 週労働時間・通勤時間・就業先

	週労働時間平均		通勤時間平均		就業先区内比率	
	(時間)	N	(分)	N		N
フルタイム雇用	43.4	331	43.6	338	28.0%	338
パートタイム雇用	21.0	356	24.0	357	63.0%	355
自営業・家族従業者	28.4	137	13.2	141	74.0%	144
全体	31.2	824	30.1	836	51.0%	837

#### 4.4 就労とメンタルヘルス

育児期にあって、色々な悩みやストレスなどを抱えることも少なくないだろう。対象者のストレスや、生活における満足度の状況はどのようになっているか、確認してみたい。

フルタイムで働く母親は、パートタイム・自営業で働く母親と比較して、職場でストレスを経験する割合がやや高い。職業生活に関する満足度は、フルタイムとパートタイムでそれほど違いがみられなかった。

<sup>16</sup> パートタイム労働では専門・管理のうちすべてが専門職。

母親本人の雇用形態別 職場でのストレス・職業生活満足度

	職場での人間関係で悩んだこと		職場で「育児への理解が不足している」と思ったこと		職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと		職業生活の満足度	
	平均値	N	平均値	N	平均値	N	平均値	N
フルタイム雇用	2.22	339	2.09	338	2.36	339	2.25	331
パートタイム雇用	1.90	376	1.58	376	1.77	376	2.21	328
自営業・家族従業者	1.64	152	1.50	153	1.65	153	2.04	120
全体	1.98	867	1.77	867	1.98	868	2.2	779
変数の説明	「何度もあった」を4点、「ときどきあった」を3点、「ごくまれにあった」を2点、「全くなかった」を1点と操作化						「非常に満足」を4点、「まあまあ満足」を3点、「やや不満」を2点、「非常に不満」を1点と操作	

#### 4.5 配偶者の就業時間、帰宅時間

つぎに、配偶者の就業次官や労働時間について確認してみよう。

配偶者の1週間あたりの就業時間が59時間以内は48%となっている一方で、帰宅時間がほぼ毎日21時以降になるとの回答が44.4%と高く、夫は職業生活への拘束が長時間にわたっていることがわかる。

配偶者の就業時間

	n	%
40時間未満	45	2.7
40～59時間	759	45.3
60～79時間	679	40.6
80～99時間	151	9
100時間以上	40	2.4
合計	1674	100

配偶者の午後九時以降帰宅日数

	n	%
ほぼ毎日	762	44.4
週に4日	210	12.2
週に3日	199	11.6
週に2日	138	8
週に1日	144	8.4
めったにない	264	15.4
合計	1717	100

#### 4.6 「働いている母親」「働きたい母親」

現在の就業状況や将来的な就業希望と、本人の基本属性とはどの程度の関連があるだろうか。まずは対象者をフルタイム、パートタイム(含自営業)、現在無職にわけ、さらに現在無職を、就業希望によって、1.フルタイムでの就業希望、2.パートタイム・自営業での就業希望、3.就業希望なしの3カテゴリーに分ける。こうして作成した合計5カテゴリーで、現在の就業状況・就業希望と基本属性との関連を比較してみよう。

世帯年収は、母親がフルタイムで就業している世帯で平均1140.6万円とずばぬけて高い。しかし母親が現在無職で専業主婦を希望している世帯では、配偶者の年収が非常に高いことにより、世帯年収も992.8万円と高い平均値を示している。またフルタイムで就業している母親の10%が離死別である。

就業状況・希望別基本属性

	平均末子年齢	平均年齢	平均世帯年収	平均サポートネットワークサイズ	核家族比率	離死別比率
フルタイムで就業中	4.4 歳 N 347	37.4 歳 346	1140.6 万円 346	5.05 人 348	93.0% 345	10.0% 347
パートタイム・自営業で就業中	7.0 歳 N 535	40.0 歳 534	869.7 万円 531	5.74 539	87.0% 536	8.0% 539
無職：フルタイム希望	3.6 歳 N 107	35.9 歳 107	821.9 万円 105	5.26 人 107	93.0% 107	4.0% 107
無職：パートタイム・自営業希望	4.2 歳 N 586	37.4 歳 585	879.5 万円 574	5.9 人 588	91.0% 588	1.0% 588
無職：就職希望なし	4.6 歳 N 260	37.7 歳 259	992.8 万円 255	6.38 人 261	92.0% 261	0.0% 261
合計	5.05 歳 N 1835	38.1 歳 1831	939.1 万円 1811	5.72 人 1843	90.0% 1837	5.0% 1842

※平均サポートネットワークサイズとは「支援してくれる人数」。4 サポートネットワークを参照

以下では上記 5 分類の対象者のうち、就業を継続・希望している 4 者について、その理由にあたる部分を詳しく検討してみたい。今回の調査では、「あなたが仕事を続けている理由、あるいはこれから仕事をしたい理由はなんですか」という質問に対し、次のような選択肢を設け、もっとも考えに近いもの一つを選んでもらうという方法をとった。

1. 働けるのが自分ひとりだから
2. 夫の収入だけでは、生活できないから
3. 増大する家計（教育費、住宅費など）に対応するため
4. 将来に備えて貯蓄するため
5. 自分自身の収入を確保するため
6. 心の健康や張りあいのため
7. 自己実現のため
8. 社会との繋がりを確保し、社会に貢献するため

フルタイムで就業している対象者からみていこう。「働けるのは自分ひとりだから」「夫の収入のみでは生活できない」といった切迫した経済状況を就業理由に挙げている対象者が 24% を占める。これに対し、「増大する家計（教育費、住宅費など）に対応するため」「将来に備えて貯蓄するため」「自分自身の収入を確保するため」という緊急度としては必ずしも高くない、いわば外延的な経済的理由によって就業している対象者は 40%であった。ここまでの 5 項目を合計すると 64.0%となり、6 割以上が経済的理由による就業だと回答している。他方、「心の健康や張りあいのため」「自己実現のため」という、心理的理由を選んだ対象者は 23.0%となり、全体の 4 分の 1 近くにのぼる。最後に、「社会とのつながりを確保し、社会に貢献するため」と回答したケースが 15.0%となった。この数字を、他の就業形

態の場合と比較してみよう。

パートタイム・自営業で就業している母親の就業理由をみると、「働けるのが自分ひとりだから」が低下し、「増大する家計に対応するため」がもっとも多くなる。一方、「心の健康や張りあいのため」「自己実現のため」という回答を合計すると 24%となり、フルタイム労働の場合とほぼ変わらぬ割合となり、わずかながら高くさえある。ここでは必ずしも家計の補助を目的とした就業ばかりではないという点に注目しておきたい。また「社会とのつながりを確保し、社会に貢献するため」という回答は 8.0%にとどまり、社会参加の実感にとほしい様子がうかがえる。パートタイムが周辺労働力として位置づけられている現在の労働力市場のありようが如実に示されているといえよう。総合すると、切迫した経済的理由 19%、外延的な経済的理由 49%、心理的理由 24%、社会的理由 8% となり、家計補助というパートタイム就労の現状が意識の面からも確かめられたといえる。

次に、現在無職の対象者についてはどうだろうか。ここではフルタイム就労を希望か、パートタイム就労を希望するかという違いをもとに分析を行ってみよう。現在無職のケースに共通する特色として、「働けるのが自分ひとりだから」という回答はほぼなくなる。また「夫の収入のみでは生活できない」という回答も、就業中のケースに比べて低い。しかしここで、フルタイムを希望している場合 11.0%に対してパートタイム・自営業を希望する場合ではわずか 3.0% と、経済的な切迫度が高いほどフルタイム就労の希望が高くなるという傾向があらわれた。一方で、「増大する家計に対応するため」「将来に備えて貯蓄するため」のいずれでもパートタイム就労希望のほうが高い割合となっており、切迫した経済的理由ではフルタイム希望、外延的な経済的理由ではパートタイム希望という分化がある様子を見ることが出来る。ただしここで、「自分自身の収入を確保するため」という、経済的理由の中では比較的個人的な理由を選択する割合は、フルタイム就労を希望する場合のほうが高いことは指摘されてもよいだろう。また、「心の健康や張りあいのため」という理由ではフルタイム希望が 12.0%なのに対しパートタイム希望では 18.0%となるが、「自己実現のため」というより明確な承認欲求についてはフルタイム就労希望 21.0%に対してパートタイム希望では 10% に過ぎず、心理的な理由のなかでも重心が異なることがわかる。社会とのつながりを理由にあげる割合は、それぞれ 10%、11% とそれほど違いはみられず、社会参加をもって就業希望の理由とする割合はそれほど高くはないといえるだろう。

就業状況希望別「働く」理由

	「働けるのが自分ひとりだから」	「夫の収入のみでは生活できない」	「増大する家計に対応するため」	「将来に備えて貯蓄するため」	「自分自身の収入を確保するため」	「心の健康や張りあいのため」	「自己実現のため」	「社会とのつながりを確保し、社会に貢献するため」	N
フルタイム就業中	10.0%	14.0%	23.0%	5.0%	12.0%	11.0%	11.0%	15.0%	330人
パートタイム・自営業就業中	6.0%	13.0%	30.0%	7.0%	12.0%	14.0%	10.0%	8.0%	496人
現在無職フルタイム希望	3.0%	11.0%	28.0%	4.0%	11.0%	12.0%	21.0%	10.0%	107人
現在無職パートタイム・自営業希望	0.0%	3.0%	35.0%	13.0%	9.0%	18.0%	10.0%	11.0%	579人
合計	5.0%	9.0%	30.0%	8.0%	11.0%	14.0%	11.0%	11.0%	1512人



## 5 サポートネットワーク

本章では、育児中の母親たちのネットワーク構造について検討する。子育てをしてゆく上で、母親たちは家族や親族、友人、あるいは地域の人々からどのような支援を受けているだろうか。こうした支援の源となる人々と対象者本人とがとりむすぶ関係を、ここでは「サポートネットワーク」と呼ぶ。区内出身の母親が少ない中で、こうしたネットワークの積極的な形成が子育てをする上で重要になってくる。本章では福岡市・徳島市における調査結果との比較を通して、世田谷区の母親たちのサポートネットワークの特性について概観した。ネットワークを量的に測定する場合は質問文の文面によって結果が大きくなることになってしまうことがあるが、今回の調査では先行する福岡市・徳島市における調査とほぼ同一の質問文を使用したため、適切な比較が可能となっている。結論を先取りして素描すると「世田谷区外の出身が多く、親は近くに住んでいない。近所の付き合いは少ないが、子育てを介してできた友人は多く持っている」というネットワークの現状が浮かび上がってきた。

### 5.1 子育てを支援するネットワークの大きさ

まずはネットワークサイズから確認してみよう。ここでは「あなたの生活において何かと助けあったり、支援してくれる方々を思い浮かべてください。何人いますか」という質問で一人当たりのサポートネットワークの構成人数をたずねている。平均人数は5.73人となった。その内訳は、子どもを介して知り合った割合が17.5%、対象者の母親が占める割合が16.9%、夫が占める割合が14.6%の順となっている。また、配偶者の有無によってネットワークの規模をみてみると、配偶者ありの場合にサポートネットワーク数が5.79人であるのに対し、配偶者なしの場合は4.40人と少ない。これは、子育てをするにあたって助けになったり相談できる相手が、ひとり親家庭では平均して一人ほど少ない事を意味している。サポートネットワークの規模が小さいことは、期待できる手助けが少ないことを直接に示している。ひとり親家庭に対しては、経済的援助のみならず、サポートネットワークの少なさを埋めるような支援がなされる必要があるだろう。

### 5.2 都市間比較

続いて都市間での比較を行ってみたい。ネットワークサイズ自体には、世田谷区、福岡市、徳島市の3都市の間で違いはみられなかった。ではネットワーク内部の構成についてはどうだろうか。

本調査では、先のサポートネットワーク人数から「その方々のうち、思い浮かんだ順に5人まで」について、対象者とそれぞれの人々との間柄や居住地、接触頻度について細かい質問が用意されている。この5人についての質問をもとに、3都市間でのネットワークの構造についての比較を行った。

サポートネットワーク サイズ・間柄別比率 都市間比較

	世田谷区		福岡市		徳島市	
	平均値	度数	平均値	度数	平均値	度数
サポートネットワークサイズ	5.73	1862	5.74	148	5.75	167
サポートネットワーク間柄別比率						
夫が占める割合	14.6%	1806	14.4%	148	14.6%	167
母親が占める割合	16.9%	1806	14.4%	148	18.3%	167
父親が占める割合	8.4%	1806	6.6%	148	11.5%	167
夫の母親が占める割合	8.0%	1806	6.3%	148	12.7%	167
夫の父親が占める割合	3.6%	1806	3.5%	148	5.3%	167
子どもが占める割合	1.9%	1806	3.4%	148	2.3%	167
きょうだい が占める割合	8.0%	1806	8.0%	148	8.6%	167
夫のきょうだい が占める割合	1.6%	1806	2.3%	148	1.3%	167
その他の親せきが占める割合	3.1%	1806	2.5%	148	3.2%	167
近所の人が占める割合	5.9%	1806	8.4%	148	2.8%	167
職場関係が占める割合	3.0%	1806	4.9%	148	2.8%	167
学生時代の友人が占める割合	3.6%	1806	5.4%	148	4.7%	167
趣味のグループの人が占める割合	0.9%	1806	2.0%	148	0.6%	167
子どもを介して知り合った人が占める割合	17.5%	1806	13.9%	148	8.8%	167
その他の友人が占める割合	2.7%	1806	3.0%	148	2.0%	167

両親の居住地 都市間比較

	世田谷区		福岡市		徳島市				
	有効パーセント	度数	有効パーセント	度数	有効パーセント	度数			
母親の居住地	同居・敷地内	7.1 %	131	同居・敷地内別居	3.3 %	5	8.3 %	14	
	15分以内	8.7 %	161	隣近所	8.6 %	13	9.5 %	16	
	15～30分以内	6.4 %	118	それ以外の市内	17.8 %	27	26.8 %	45	
	30分～1時間以内	13.9 %	257	県内	29.6 %	45	34.5 %	58	
	1時間～2時間以内	21.8 %	404	県外	32.2 %	49	17.3 %	29	
	2時間以上	35.6 %	660	亡くなった	8.6 %	13	3.6 %	6	
	死亡	6.5 %	121	合計	100.0 %	152	100.0 %	168	
	合計	100.0 %	1852						
	父親の居住地	同居・敷地内	4.7 %	86	同居・敷地内別居	2.7 %	4	6.6 %	11
		15分以内	7.3 %	134	隣近所	6.0 %	9	9.0 %	15
15～30分以内		5.4 %	100	それ以外の市内	16.7 %	25	25.1 %	42	
30分～1時間以内		11.0 %	203	県内	24.0 %	36	32.3 %	54	
1時間～2時間以内		19.1 %	352	県外	30.7 %	46	15.6 %	26	
2時間以上		32.7 %	602	亡くなった	20.0 %	30	11.4 %	19	
死亡		19.8 %	364	合計	100.0 %	150	100.0 %	167	
合計		100.0 %	1841						
夫の母親の居住地		同居・敷地内	9.1 %	157	同居・敷地内別居	10.6 %	15	26.7 %	44
		15分以内	7.9 %	136	隣近所	10.6 %	15	13.3 %	22
	15～30分以内	5.8 %	100	それ以外の市内	15.6 %	22	18.2 %	30	
	30分～1時間以内	11.7 %	202	県内	18.4 %	26	25.5 %	42	
	1時間～2時間以内	19.1 %	330	県外	36.9 %	52	11.5 %	19	
	2時間以上	37.4 %	648	亡くなった	7.8 %	11	4.8 %	8	
	死亡	9.1 %	158	合計	100.0 %	141	100.0 %	165	
	合計	100.0 %	1731						
	夫の父親の居住地	同居・敷地内	6.8 %	115	同居・敷地内別居	9.2 %	13	26.7 %	44
		15分以内	6.4 %	109	隣近所	9.9 %	14	13.3 %	22
15～30分以内		4.7 %	80	それ以外の市内	15.6 %	22	18.2 %	30	
30分～1時間以内		9.3 %	158	県内	14.2 %	20	25.5 %	42	
1時間～2時間以内		16.5 %	281	県外	25.5 %	36	11.5 %	19	
2時間以上		31.8 %	542	亡くなった	25.5 %	36	4.8 %	8	
死亡		24.5 %	418	合計	100.0 %	141	100.0 %	165	
合計		100.0 %	1703						

まずはサポートネットワークとして重要な役割を果たすと考えられる親族関係に注目しよう。親族ネットワークが地元を集積している徳島市と比較すると、世田谷区は親族関係が少ない。特に夫方親族との同居が 1/4 にのぼる徳島市と比べると、夫方の親族からのサポートは期待しにくい状況にあるといえる。しかし福岡市と比較してみると、自身の母親と同居・隣居している比率が高く、妻の母親が子育てのサポートネットワークに占める比率も高い。サポートネットワークの親族関係については、どちらかといえば妻方傾斜がみられるといえよう。

また、世田谷区は他の都市と比べて、「子どもを介して知り合った人」が重要なサポートネットワーク 5 人に占める比率が高いことが示された。これは、福岡や徳島では親族や地元出身の友人など、地域的に限定された範囲における相互支援の関係が深いのに対し、区内出身者が少なく移動性の高い世田谷区では、「子育て広場」などを通じて形成される母親同士のつながりが、地域の中で形成されている可能性が考えられる。一方で「近所の人」がネットワークに占める割合は他の両市と比べても低いことから、近所づきあいの意味における近隣のサポートは活発ではないことがわかる。全体的には、妻方親族と子育て仲間という 2 極に分化したネットワーク構造になっていると考えることができよう。

この妻方に傾斜した親族ネットワークの構造は、世田谷区の女性にとっては就労の面からも大きな意味をもっている。本調査データを用いてフルタイム就労を希望する女性の現在の就労状況とその規定要因を分析した中西泰子によれば、学歴や夫の収入などの属性要因をのぞくと、就労しているかどうかを規定するのは妻方親族のサポート利用可能性であるという(中西 2009: 28-29)<sup>17</sup>。

---

<sup>17</sup> 中西泰子, 2009, 「働きたくても働けないのはなぜか—子育て女性の就業に関わる要因の検討—」安河内恵子編『少子化と既婚女性の支援ネットワークに関する都市間比較研究』文部科学省科学研究費報告書: 21-30.

## 6 世田谷区における育児サービスの認知と利用

### 6.1 問題

ここでは世田谷区が提供している様々な育児サービスについて、その認知度と利用状況に関する分析を行う。世田谷区では平成11年の「子どもを取り巻く環境整備プラン」に続いて、平成15年7月に成立・公布された「次世代育成支援対策推進法」をうけて平成17年には「世田谷区子ども計画」を策定した。21年度には同計画の見直しも予定されている。さらに現在は「東京一子育てしやすいまち」を目指しており、子どもの年齢や家庭の状況に応じて種々の育児支援サービス提供も行われている。まさに子育て支援は区のなかで重要な位置を占める施策であるといつてよい。

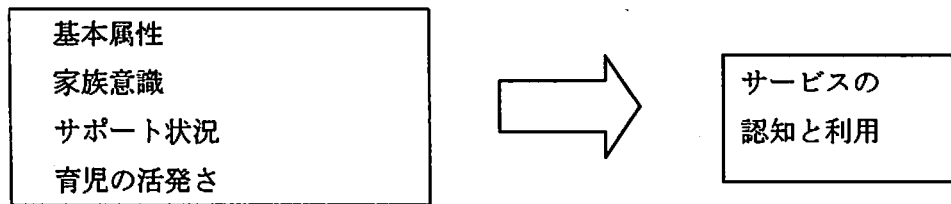
ここで、これらの施策が狙い通りに機能しているのかという点について確認してみる必要があるだろう。行政による支援は家族やサポートネットワークを補う働きが期待される。果たして区のサービスは必要な支援を必要な人々に届けられているだろうか。この問題は、第一に認知の状況、第二に利用の状況の二点から検討される必要がある。区が提供するサービスについては、利用のしやすさとは別に、そもそも区民から十分な認知を得ていない場合も少なくない。区が提供する育児サービスはどのような層に認知され、どのような層に利用されているのか。この二点を知ることを通して、施策が狙い通りに機能しているかどうか、また不足している部分は何なのかということについて考える契機にしよう。

### 6.2 枠組み

区が提供する育児サービスに対する関心の度合いは、母親たちが現在置かれている状況によって様々に異なることが予想できる。状況を規定する要因としては、子どもの年齢、母親たちの学歴や職業、家族構成や収入といった基本属性があげられる。また家族や親族、あるいは友人たちによるサポートのありようや、家族のあり方に関する意識、育児に関する活動の活発さなども関心の高さに影響していると考えられる。こうした複数の要因が育児サービスに対する需要の度合いを左右し、サービスの情報に対する動機付けやアクセスのしやすさを規定するであろう。これらの関係を図式化すると図1のようになる。

本章ではこれらの要因が育児サービスの認知と利用に与える影響について分析を行うことで、サービス認知と利用についての現状を調べてゆくことにしたい。まず最初に認知の現状を把握したのち、情報の主な入手経路について確認してゆく。その後、認知度と利用量のそれぞれについて、要因分析を行う。なお今回の分析では、要因分析については未就学児をもつ母親1054ケースに限定して分析を行った。

図1 育児サービスの認知と利用



### 6.3 変数

●被説明変数

サービス認知度・・・q23の全項目を「知っている=1」「知らない=0」に分けた合計

サービス利用の有無・q24の項目をひとつでも「1. 利用している/利用したことがある」

●説明変数

基本属性・・・年齢・学歴（3分類）・職業（4分類）

家族意識・・・下表の通り

サポート・・・近距離友人数（1を足して常用対数に変換したもの）

サポート得点合計

育児活動量・・・問9イベント参加量、問28育児サービス利用量

#### 家族意識主成分

成分	初期の固有値			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1.000	2.221	37.014	37.014	2.017	33.622	33.622
2.000	1.113	18.545	55.559	1.316	21.937	55.559
3.000	0.910	15.162	70.721			
4.000	0.715	11.918	82.639			
5.000	0.634	10.575	93.214			
6.000	0.407	6.786	100.000			

	第一主成分	第二主成分
性別役割分業	0.843	0.125
性別育児	0.612	0.105
平等分担	0.575	0.043
3歳児神話	0.755	0.095
子どもなし	0.039	0.834
夫婦別姓	0.171	0.764

主成分分析 パリマックス回転

$\alpha = .667, 461$

## 6.4 分析

### 6.4.1 情報経路の確認

育児サービスの認知と情報経路

	区広報誌で 知った	区ホームページで	友人に 聞いた	親・家族に 聞いた	その他 で知った	学校で	保育園で	幼稚園で	知らない
子育てひろば	34.3	4.9	14.4	0.3	7.2	-	-	-	38.8
ほっとステイ	29.8	4.9	11.0	0.3	6.6	-	-	-	47.4
子育てカレッジ	20.9	3.1	2.2		2.4	-	-	-	71.5
病児・病後児保育	23.4	6.9	3.6	0.7	15.8	-	-	-	49.6
子育てテレフォン	56.9	7.4	1.0	0.4	9.2	-	-	-	25.1
さんさんサポート	39.6	5.2	5.9	0.7	16.3	-	-	-	32.3
認定子ども園	26.7	6.1	6.0	0.4	5.2	-	-	-	55.6
お父さんのための子育て講座	15.1	1.8	0.7	0.1	1.3	-	-	-	81.0
新BOP内学童クラブ	16.0	3.8	26.0	2.4	4.3	9.6	0.5	0.2	37.2
NPOなどの子育て支援活動	22.0	4.7	8.5	0.3	5.0	-	-	-	59.5

育児サービスは、どのようなサービスがどの程度知られているのだろうか。そしてどこからの情報によって母親たちに届けられているのだろうか。まず基本的な情報から確認してみたい。

区が提供するサービスのそれぞれについて知っているかどうかを訊ねた結果が上掲の表である。「知っている」と回答した場合はさらにどうやって知ったかを自由回答でこたえてもらった。「知っている」と答えたケースの中では、「新 BOP」を除くすべてのサービスについて区の広報誌から情報を得たとする回答が最も多い<sup>18</sup>。また友人に聞いたという回答が多いことにも注目したい。特に「子育てひろば」と「ほっとステイ」についての情報は「友人に聞いた」と回答した人が全体の 1 割弱を占めており、母親同士の交流の場への参入は、現在すでに育児ネットワークを構築している母親のほうで情報入手の面でも有利であることがわかる。一方、「病児・病後児保育」や「さんさんサポート」については「その他」の回答が 10%を超えているが、このうち半数以上は病院や保育所、また区の窓口などの専門機関による情報であった。

また、それぞれのサービスを「知らない」人の多さを見過ごすことはできない。最も認知の高い「子育てテレフォン」でさえ全体の 25.1%は「知らない」と回答しており、実に四人に一人にのぼる。「お父さんのための子育て講座」にいたっては 81%の人に知られておらず、そもそも一般に認知されていないといえることができる。

これらの人々に対する情報発信の手段を検討する必要があるのではないだろうか。また、先に見た「子育てひろば」や「ほっとステイ」についても注目しておきたい。ネットワークを介して両サービスを知る人が一定数いた一方で、「子育てひろば」については 38.8%、ほっとステイでは 47.4%の人がその存在を知らないとしている。母親同士の交流の機会獲得における格差には注意されなければならないだろう。

<sup>18</sup> すべての対象者で見た場合の表 2 と比較すると、新 BOP については「学校で」という回答が最も多いが、今回の分析対象は未就学児をもつ母親であるためその割合は低下する。

これらの情報を入手する経路は、大きく分けると区の広報誌やホームページといった「区の媒体」、友人や家族などの「ネットワーク経由」、そして「その他」の3種に分類することができる。これに「知らない」とする回答を加え、4種に分類して平均値を示したものが表2である。広報誌から情報を得たサービスは、平均すると母親ひとりあたり2.84となり、ネットワークやその他は1に満たない。一方「知らない」では4.96となり、区が提供するサービスのおよそ半分が認知されていなかった。

主な情報経路の分布（平均値）

	平均値	標準偏差
広報誌経由	2.84	2.53
ネットワーク経由	0.84	1.14
その他による	0.83	1.29
知らない	4.96	2.52
n=1054		

続いて主な情報経路の相関係数を検討してみたい。各項目について係数の符号がマイナスを示しており、広報誌から主に情報を得る人はネットワークやその他の手段からの情報を得ることは少なく、またネットワークやその他の手段から主に情報を得ている人は広報誌から情報を得ることが少ない傾向が確認できた。

主な情報経路の相関

	広報誌経由	ネットワーク経由	その他による	知らない
広報誌経由		-0.210 ***	-0.218 ***	-0.671 ***
ネットワーク経由	-0.210 ***		-0.080 **	-0.174 ***
その他による	-0.218 ***	-0.080 **		-0.210 ***
知らない	-0.671 ***	-0.174 ***	-0.210 ***	

続いて情報入手と度数のグラフを見てみよう。ここでは割合の高かった広報誌からの情報入手と、「知らない」と回答したケースの比較を行ってみたい。下の図では広報誌からの情報入手について、知っているサービス数と人数別にグラフに表している。「広報誌から知ったサービスはない」という下表一番左の「0」が最も多く、すべて広報誌で知ったという下表一番右の「10」に向って人数が減っていく。特に「0」の度数から、およそ1/4の人が広報誌を読んでいない、少なくとも情報源としては活用していないことがわかる。他方、「知らない」と回答した人と知らないサービス数についてのグラフからは、すべて知っている人、すべて知らない人がともに少なく、ちょうど半数の「6」前後に山の頂が来る釣鐘状の分布を見せていることから、広報誌からの情報を得ていない人であっても、ネットワークや専門機関などの経路によって何らかのかたちである程度情報が入手されていることがうかがえる。

図1 広報誌からの情報入手（単位：項目数）

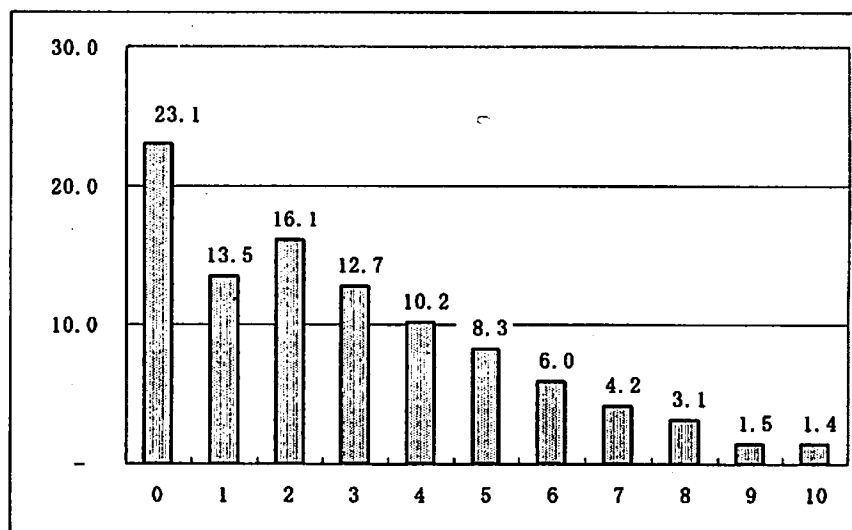
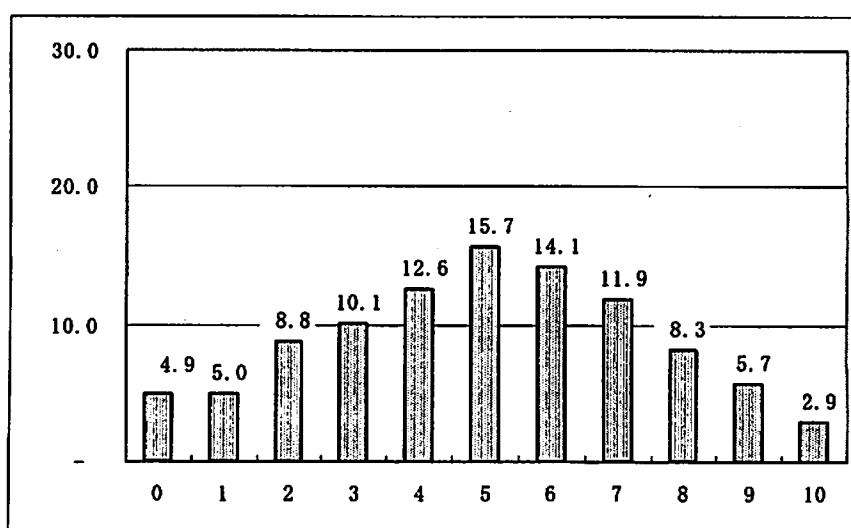


図2 「知らない」度数の分布（単位：項目数）



#### 6.4.2 サービスを利用するための主な情報入手先

現在区が進めている在宅子育て支援策の様々な事業に関する質問では、施策情報の入手先として数多く挙げられているのが区広報紙であった。区広報紙を読む母親は幅広く施策について情報を手にしている。逆に、区広報紙を読まない母親は子育て情報を知らないなど、広報紙が施策の周知に重要な位置を占めているようだ。また、「さんさんサポート」については、母子手帳と一緒に配布されたパンフレットで、また、「病児・病後児保育」については、病院のポスター・パンフレットで知ったという回答が多く、このような区広報紙以外の方法による情報提供や働きかけが施策の認知に貢献していることがわかった。



区子育て支援の認知

	子育てひろば		ほっとステイ		子育てカレッジ		病児・病後時保育		世田谷子育てテレフォン		さんさんサポート		認定こども園	
区広報紙で知った	29.4%	548人	24%	446人	19.4%	362人	23%	429人	52.7%	981人	28.1%	524人	21.5%	401人
区ホームページで知った	3.4%	64人	3.1%	58人	1.8%	34人	4.6%	86人	5.2%	96人	3.5%	65人	3.7%	69人
友人に聞いた	9.7%	180人	7.7%	143人	1.5%	28人	4.2%	78人	1%	19人	4.4%	82人	5.4%	100人
親・家族に聞いた	0.3%	5人	0.2%	4人	0.1%	1人	0.6%	12人	0.6%	11人	0.5%	9人	0.3%	6人
その他で知った	5.3%	99人	4.5%	84人	1.7%	31人	12.5%	232人	8%	149人	10%	186人	4.5%	83人
知らない	51.5%	959人	60.1%	1119人	74.9%	1395人	54.7%	1019人	32%	595人	53%	987人	64.3%	1197人
無回答	0.4%	7人	0.4%	8人	0.6%	11人	0.3%	6人	0.6%	11人	0.5%	9人	0.3%	6人
合計	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人

区子育て支援の利用希望

	子育てひろば		ほっとステイ		子育てカレッジ		病児・病後時保育		世田谷子育てテレフォン		さんさんサポート		認定こども園	
利用経験あり	13.1%	243人	2.4%	44人	1.5%	28人	3.2%	59人	5.7%	106人	4.7%	88人	0.7%	13人
利用希望・利用予定	16.6%	310人	18.2%	339人	19.1%	356人	18.3%	340人	19.2%	358人	10.4%	194人	12.7%	236人
利用してみたかった	27.3%	508人	27.1%	504人	22.8%	424人	19.6%	365人	16%	298人	30.9%	576人	21.2%	394人
利用したくない	18.2%	338人	23.4%	435人	21.4%	398人	21.2%	394人	18.9%	352人	20.6%	383人	24.2%	450人
わからない	23.1%	430人	27.4%	510人	33.1%	616人	35.6%	662人	38.1%	709人	31.3%	582人	39%	727人
無回答	1.8%	33人	1.6%	30人	2.1%	40人	2.3%	42人	2.1%	39人	2.1%	39人	2.3%	42人
合計	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人	100%	1862人

またサービスを利用した経験はまだ少ないが、今後利用してみたい、利用したかったという意見が多かった事業は、「子育てひろば」や「ほっとステイ」などで、施策の周知がより広がることで利用ニーズが高まる可能性がある。

### 6.4.3 属性別サービス認知度

では、サービス全体の認知量はどうか。それぞれのサービスを「知っている=1」「知らない=0」とし、合計したものをここでは「サービス認知度」と呼ぶことにする。このサービス認知度は何によって規定されているのだろうか。

基本属性別にみたサービス認知度

本人年齢10歳 20代 30代 40代	区のサービス認知度		
		4.56	98
		4.94	768
		4.87	180
			1,046
本人学歴3分類 中・高卒 短大・高専卒 大学・院卒	区のサービス認知度		
		4.51	161
		4.94	398
		4.99	484
			1,043
本人職業4分類 自営 フルタイム パート・アルバイト 無職	区のサービス認知度 ***		
		4.81	70
		5.53	226
		5.07	101
			648
			1,045
区のサービス認知度 配偶者の有無 あり なし	平均値		
		4.15	1,732
		3.59	82

\*\*\* p<0.001, \* p<0.05

年齢、学歴、職業、配偶者の有無という4項目の基本属性と認知度との関係を示した。属性別に見た場合では、統計的に有意な差が表れるのは職業ごとに分けた場合に限られる。フルタイム労働者で最も認知度が高く、以下パート・アルバイト、自営業と続く。そして無職の場合に最も認知度が低い結果となった。

続いて量的な指標との関係を確認してみよう。地域でのイベントに多く参加する人ほど認知度が高いという傾向が現れている。多数の人々と接触する機会の多さが、情報獲得に有利な結果をもたらすのであろう。また、家族意識が高い人はサービス認知が低い傾向を見せている。家族意識と他の指標との相関をみると、イベント参加も活発で近距離友人も多く、育児サポートも数多く得られている人々であることがわかるが一方で育児サービスの利用量も少ない。家族意識の高さが家庭内で育児を完結させようとする方向にはたらく、専門サービスの活用については積極的でないのかもしれない。

続いて、属性に加えて先に見た量的な変数を同時に投入した場合はどうなるかを確認してみよう。はじめにmodel1では育児ネットワークとして想定される近距離友人数を、またmodel2ではネットワークから受けているサポートの合計を投入して分析を行った。

分析結果をみると、職業、イベント参加量、家族意識が有意となっている。これまで個別に見てきたなかで効果をもっていた要因は、それぞれ独立に効果をもたらしていることが確認できた。また近距離の友人ネットワークの影響が認められる。このことから、

区のサービスの認知度は、職業的な条件がサービス認知を高めるといふことと並んで、地域への参加度合いが高いほどサービス認知も高まるという傾向を指摘することができる。一方、そういった条件とは別に、家族意識のありようはサービスを利用しようとする動機付けそのものを抑制する効果がある傾向がみとめられたといえよう。

### 量的変数との相関

	区のサービス認知度	イベント参加量	育児サービス利用量	近距離友人数	サポート合計	家族意識主成分	個人化主成分
区のサービス認知度	1.000	0.178 ***	0.073 *	0.083 **	0.067 *	-0.118 ***	0.009
イベント参加量	0.178 ***	1.000	0.078 *	0.339 ***	0.157 ***	0.157 ***	0.047
育児サービス利用量	0.073 *	0.078 *	1.000	0.063 *	-0.023	-0.174 ***	0.036
近距離友人対数	0.083 **	0.339 ***	0.063 *	1.000	0.212 ***	0.239 ***	0.104 ***
サポート合計	0.067 *	0.157 ***	-0.023	0.212 ***	1.000	0.134 ***	0.040
家族意識主成分	-0.118 ***	0.157 ***	-0.174 ***	0.239 ***	0.134 ***	1.000	-0.000
個人化主成分	0.009	0.047	0.036	0.104 ***	0.040	-0.000	1.000

\*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

### サービス認知度の重回帰分析結果

(定数)	model1	model2
問5 年齢	-0.031	-0.027
学歴		
短大・高専ダミー	0.078	0.077
大学・院卒ダミー	0.063	0.060
職業		
自営ダミー	0.014	0.007
フルタイム	0.144 ***	0.125 ***
非正規雇用	0.044	0.042
配偶者の有無(ref=なし)	-0.031	-0.034
イベント参加量	0.186 ***	0.203 ***
育児サービス利用量	0.016	0.026
家族意識主成分	-0.105 **	-0.099 **
個人化主成分	-0.004	0.002
近距離友人対数	0.086 *	
サポート合計		0.035
調整済みR2乗 n=1027	0.067	0.062

## 6.5 保育サービスなどの利用経験

続いて、サービスの利用についてみていきたい。フルタイムで就業している母親の7割弱、パートタイム・自営業で就業している母親の5割弱が、認可保育園を利用している。また、認証保育所や保育室、ベビーシッターの利用率は、フルタイムとパートタイム・自営業ともに高い。専業主婦では幼稚園の利用率が高くなっていた。

就業状況別 保育施設・保育サービスの利用経験比率(長子が5歳以下のサンプルに限定)

	区立保育園	認可の私立保育園	認可保育園(区立と私立の合計)	公立幼稚園	私立幼稚園	認証保育所	事業所内保育施設
フルタイム就労	50.0%	20.8%	65.2%	0.0%	2.2%	21.3%	2.2%
パートタイム・自営	27.0%	25.0%	45.0%	2.0%	20.0%	22.0%	2.0%
無職	4.3%	5.0%	8.8%	3.2%	30.0%	8.1%	1.6%
合計	18.7%	11.6%	27.7%	2.2%	21.7%	13.3%	1.8%

	保育ママ	保育室	無認可保育施設	ベビーシッター	ふれあい子育て	いずれも利用したことはない	N
フルタイム就労	2.8%	10.7%	8.4%	14.6%	9.0%	16.9%	(178人)
パートタイム・自営	2.0%	16.0%	9.0%	14.0%	8.0%	17.0%	(100人)
無職	0.2%	3.8%	6.3%	6.8%	8.6%	47.7%	(444人)
合計	1.1%	7.2%	7.2%	9.7%	8.6%	35.9%	(722人)

6.5.1 保育サービスなどの利用希望

利用希望に関しては、フルタイム就労の母親は認可保育園の利用希望が高く、一方でパートタイム・自営業の母親は、幼稚園希望と認可保育園希望に分かれている。専業主婦は、何らかの保育サービスを希望する人の8割以上が幼稚園を希望している。保育サービスの利用希望は就労の動向と深く関わっており、この傾向は変わらないと思われる。

就業状況別 保育施設・保育サービスの利用希望比率(全サンプル)

	区立保育園	認可の私立保育園	認可保育園(区立と私立の合計)	公立幼稚園	私立幼稚園	認証保育所	事業所内保育施設
フルタイム就労	51.9%	27.4%	63.0%	5.0%	7.9%	9.9%	2.0%
パートタイム・自営	14.3%	8.9%	19.4%	4.5%	13.9%	4.3%	1.3%
無職	10.1%	6.1%	12.9%	17.0%	46.1%	5.4%	2.8%
合計	19.1%	10.9%	24.2%	11.1%	29.7%	5.9%	2.2%

	保育ママ	保育室	無認可保育施設	ベビーシッター	ふれあい子育て	いずれも利用する予定はない	N
フルタイム就労	4.4%	5.2%	3.5%	20.7%	14.3%	28.0%	(343人)
パートタイム・自営	2.3%	3.2%	1.1%	5.8%	3.4%	62.9%	(531人)
無職	2.4%	4.0%	4.0%	8.3%	8.3%	35.5%	(960人)
合計	2.7%	4.0%	3.1%	9.9%	8.0%	42.0%	(1834人)

### 6.5.2 子育て支援政策と期待

区が今後取り組んでいくべき子育て支援施策については、多くの母親が「有効である」と評価していた。その中でも、とりわけ保育時間の延長、休日保育、病時・病後児保育などの保育サービスの拡充や、新BOPなどによる「小学生の居場所の確保」、母親本人や子どもの病気時の支援サービスで、非常に有効とどちらかといえば有効をあわせると90%を超えるなど多くの母親が有効であるとの意見をもっていた。

一方、有効であるという意見と有効でないとする意見に分かれていたのは「24時間保育」と家庭での家事・育児の代行サービスであった。これらは母親の仕事の内容やサポートネットワーク（支援）の状況、さらには子育てに対する考え方、経済状況などにより生じるニーズの違いが背景にあると思われる。特に24時間保育などの場合、必要とする人にとっては切迫した重要性がある一方で、必要としない人にとっては全くどうでもいい問題であったりするような状況も起こりえる。ここでの知見は個別具体的な項目について検討素材とするより、育児期の母親がどのような形で行政によるサポートをおおむね評価し、かつ求めているということが確認されたといえるのではなかろうか。

有効な子育て支援施策

	認可保育圏をふやす	保育サービスの拡充	24時間保育	小学生の居場所の確保
非常に有効	56.4 % 1051 人	66.5 % 1238 人	30.2 % 563 人	62.5 % 1163 人
どちらかといえば有効	36.7 % 684 人	27.8 % 518 人	42.7 % 795 人	33.7 % 628 人
あまり有効でない	4.5 % 84 人	4.0 % 74 人	21.9 % 407 人	2.6 % 48 人
まったく有効でない	1.1 % 20 人	1.0 % 18 人	4.2 % 79 人	0.5 % 9 人
無回答	1.2 % 23 人	0.8 % 14 人	1.0 % 18 人	0.8 % 14 人
合計	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人
	NPO等との協力	病気時の支援サービス	家事・育児の代行サービス	事業者の支援
非常に有効	22.6 % 420 人	59.3 % 1105 人	30.6 % 570 人	40.6 % 756 人
どちらかといえば有効	60.8 % 1133 人	36.5 % 679 人	48.1 % 895 人	41.6 % 775 人
あまり有効でない	14.7 % 274 人	3.0 % 56 人	19.0 % 354 人	14.6 % 271 人
まったく有効でない	0.8 % 14 人	0.4 % 7 人	1.1 % 21 人	2.1 % 39 人
無回答	1.1 % 21 人	0.8 % 15 人	1.2 % 22 人	1.1 % 21 人
合計	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人	100.0 % 1862 人

### 6.5.3 サービス利用の有無

続いて、区が提供するサービス利用について検討を行ってみたい。まずは現況について、単純集計から確認してみよう。

ほとんどのサービスについて「利用していない」と回答する割合が全体的に高い。10%を超えているものも「子育てひろば」と就学児を対象としている「新BOP」の二つしかなく、最も利用率の高い「子育てひろば」についても20.5%にとどまっている。

全体的な利用率の低さに加え、サービス利用については平均して2つ以上のサービスを利用している人がごく少数であった。このこと自体も検討されるべき課題となりうると考

サービス利用状況の基礎集計

		度数	%
子育てひろば	利用していない	827	79.5
	利用	213	20.5
	合計	1040	100.0
ほっとステイ	利用していない	1000	96.2
	利用	40	3.8
	合計	1040	100.0
子育てカレッジ	利用していない	1012	97.9
	利用	22	2.1
	合計	1034	100.0
病児・病後児保育	利用していない	996	96.1
	利用	40	3.9
	合計	1036	100.0
世田谷子育てテレフォン	利用していない	951	91.6
	利用	87	8.4
	合計	1038	100.0
さんさんサポート	利用していない	955	92.2
	利用	81	7.8
	合計	1036	100.0
認定子ども園	利用していない	1025	99.2
	利用	8	0.8
	合計	1033	100.0
お父さんのための子育て応援講座	利用していない	1025	99.1
	利用	9	0.9
	合計	1034	100.0
新BOP内学童クラブ	利用していない	914	87.5
	利用	130	12.5
	合計	1044	100.0
NPO団体などの子育て支援活動	利用していない	955	92.1
	利用	82	7.9
	合計	1037	100.0

えられるが、ここではこれ以上たちいることはしない。ひとつでも区のサービスを利用していれば1、ひとつも利用していない人は0として分析を行っている。先の認知度と同様、まずは個人属性別にみてみよう。

年齢・職業・配偶者の有無によってサービス利用の有無が影響をうけている。20代では利用経験ありとした人が36.6%にすぎないのに対し、30代で47.6%となり、40代以上では50.9%と半数を超えている。職業的な違いによる傾向では、現在無職の人が41.9%の利用にとどまっているのに対してパート・アルバイトでは49.5%と5割に迫り、自営業とフルタイムでは56%、61.2%となり半分以上が何らかの区が提供する育児サービスを利用している。

個人属性とサービス利用の有無

	区のサービス利用有無				合計	
	なし		あり			
	n	%	n	%		
本人年齢10歳	20代	64	63.4	37	36.6	101 *
	30代	530	52.4	481	47.6	1011
	40代	345	49.1	357	50.9	702
本人学歴3分類	中・高卒	169	53.7	146	46.3	315
	短大・高専卒	349	49.9	351	50.1	700
	大学・院卒	413	52.5	374	47.5	787
本人職業4分類	自営	66	44.0	84	56.0	150 ***
	フルタイム	132	38.8	208	61.2	340
	パート・アルバイト	186	50.5	182	49.5	368
	無職	551	58.1	398	41.9	949
配偶者の有無	あり	906	52.3	827	47.7	1732 *
	なし	34	41.5	48	58.5	82

\*\*\* p<0.001, \* p<0.05

量的な変数では、イベントの参加量とあわせ、育児サービスの利用量との間に関連が認められる。イベント参加が活発であるほど利用する傾向があり、また一般の育児サービスを利用する度合いが高いほど、区が提供するサービスについても利用しているという傾向が確認できる。また近距離の友人が多いことは若干サービス利用との正の関連があり、家族意識はマイナスの相関を見せているため、やはり先の認知同様に家族意識がサービス利用をおさえる傾向がみてとれる。

ここで、これまで個別にみてきたすべての要因を同時に投入した分析の結果を検討してみよう。model1では年齢や職業、配偶者の有無といった属性要因の効果は失われ、イベント参加量と育児サービスの利用量のみ効果が認められた。地域のイベントに活発に参加する母親は区が提供する育児サービスも利用しており、また一般の育児サービスを利用している母親も区が提供する育児サービスを利用する傾向がある。また model2 ではサポート合計量が多いことは、わずかながらサービス利用を抑制する効果をもっていた。

### 量的変数との相関

	区のサービス 利用益	家族意識主成 分	個人化主成分	イベント参加 量	育児サービス 利用益	近距離友人数	サポート合計
区のサービス利用益	1.000	-0.028	-0.028	0.194 ***	0.132 ***	0.126 ***	0.012
家族意識主成分	-0.028	1.000	-0.000	0.157 ***	-0.174 ***	0.239 ***	0.134 ***
個人化主成分	-0.028	-0.000	1.000	0.047	0.036	0.104 ***	0.040
イベント参加量	0.194 ***	0.157 ***	0.047	1.000	0.078 *	0.339 ***	0.157 ***
育児サービス利用益	0.132 ***	-0.174 ***	0.036	0.078 *	1.000	0.063 *	-0.023
近距離友人数	0.126 ***	0.239 ***	0.104 ***	0.339 ***	0.063 *	1.000	0.212 ***
サポート合計	0.012	0.134 ***	0.040	0.157 ***	-0.023	0.212 ***	1.000

\*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

### 利用の有無に関するロジスティック回帰分析の結果

	model1		model2	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)
年齢	0.01	1.01	0.01	1.01
学歴(ref=中・高卒)				
短大・高専	0.31	1.36	0.35	1.42
大学・院卒	0.21	1.23	0.25	1.28
職業(ref=無職)				
自営業	0.17	1.19	0.19	1.21
フルタイム	0.14	1.14	0.15	1.16
非正規雇用	-0.03	0.97	-0.02	0.98
配偶者あり (ref=なし)	-0.17	0.85	-0.23	0.80
イベント参加量	0.36	1.43 ***	0.39	1.48 ***
育児サービス利用度	0.21	1.24 **	0.22	1.24 ***
家族意識主成分	-0.08	0.92	-0.05	0.95
個人化主成分	-0.08	0.92	-0.07	0.93
近距離友人数	0.13	1.14		
サポート合計			-0.02	0.98 *
定数	-1.40	0.25 *	-1.09	0.34

カイ2乗  
-2 対数尤度  
n=1024

59.77 \*\*\*  
1352.9  
n=1024

63.36 \*\*\*  
1,349.30  
n=1024

## 6.6 まとめ

ここではおもに区が提供するサービスの認知度、またその情報入手経路と利用の現況について分析を行ってきた。本章での知見をまとめると以下のようなになる。

1. 情報の入手経路は主に区の情報誌であるが、全く情報誌を経路としない人も25%ほどおり、各サービスの認知度低下をもたらしていると考えられる。それ以外の経路の開発が求められるといえるのではないか。
2. 育児サービスに対する関心の高さを示すと考えられるサービス認知度については、フルタイム雇用である場合、また近距離ネットワークが発達している場合に高い傾向がみられ、伝統的な家族意識を持っている人に低い傾向がみられた。育児サービスの利用の有無に関しては、全般的に利用の割合が低いことが指摘できる。
3. 利用を決定する要因は地域へのイベント参加量および普段からの育児サービスの利用量であった。育児に活発な母親はサービスを利用できていることが確認されたといえる。



以上が本章の検討から得られた知見となる。近距離ネットワークが情報量を増加させていることから、逆の角度からみれば、近距離ネットワークの規模が小さい人ほど育児サービスに関する情報からも遠ざかっていることを示しており、何らかの政策的な対応が求められるといえるのではないか。また一方認知の場合と同様に、なんらかの事情で育児イベントに参加できない母親は育児サービスの利用も行っていないということでもあり、サービスを受ける度合いについて母親間で格差が存在していることをうかがわせる結果となった。しかし今回の分析ではこれ以上に立ち入った検討を行うことができない。今後はこういった利用状況と母親の現状について、より詳細な研究が求められるといえよう。

## 7 まとめ

ここまで、世田谷区における育児期女性の生活とサポートネットワーク構造の分析を行ってきた。

以下に本稿で分析された結果をまとめてみよう。

### 7.1 世田谷区と少子化

世田谷区においては晩婚化・少産化いずれの趨勢もはっきりと表れていた。ただし未婚化に関しては、男女で事情が異なる。男性は35歳以降で全国平均・東京都平均のいずれよりも低くなる。一方、女性は生涯未婚率で全国平均・東京都平均のいずれも上回っており、女性に関しては晩婚化に加えて未婚化も進展している様子が見えがえた。

また実際の子ども数と希望する子ども数は、約一人分の差がある。実際の子ども数は9割近くが2人以下であるのに対し、希望する子ども数では8割以上が2人または3人と回答している。希望子ども数は属性によって差はなかったが、実際の子ども数は高学歴女性、フルタイム労働の女性で有意に少なくなっていた。就労と育児の両立は依然として難しい状況にあることがわかる。

### 7.2 対象者の属性

世田谷区という近郊住宅都市の性格を反映し、高学歴・高収入の対象者が多い。年齢もやや高い傾向にある。区内の居住年数はさほど長くなく、結婚・出産を機に区内へ転入してきた様子が見えがえる。日常生活の満足度はそれなりに高いが、半程度対象者が生活において何がしかのストレスを感じている。

### 7.3 就労

結婚、出産を経て専業主婦になっていく可能性が高い。世田谷区の女性の就労率を年齢別にみていくと、子どもが大きくなってから再び就労するM字型のカーブを描かず、学卒期に最も高くその後ゆっくり低下に向かう「への字型」に近い形態になる。

一方、現在無職の対象者の就業希望は概ね高く、七割以上が就労を希望している。およそ5倍の収入格差が存在するにもかかわらず、そのうち6割はパートタイムでの就労を希望している結果となった。これは、育児と就業の時間的制約に折り合いをつけるためであると考えられる。また一度離職してしまうとフルタイム就労が難しいというわが国の雇用慣行による現実を踏まえた選択でもあるといえよう。希望してパートタイムではなく、パートタイムを希望するしかないという現状を一面でものがたっている。

現在働いている理由およびこれから働きたい理由についても、現在の就労形態によって異なっている様子が見られた。フルタイム就労の場合、生活の必要上といった切迫する経済的必要性のほか、社会貢献につながるからという社会的理由をあげる割合が高い。一方、

パートタイム・アルバイト・派遣などの非正規雇用に就いている対象者の場合、貯蓄や家計補助など外延的な経済的理由によって就労していると回答する割合が高かった。また、心理的な理由を挙げる場合でも「自己実現のため」ではなく「心の健康や張りあいのため」を選ぶ傾向にある。

この傾向は、現在働いていない人に同様の質問を訊ねた場合でも確認することができる。現在無職の人でこれから働くことを希望する場合、希望する就労形態別に重視する部分に違いがみられた。

フルタイム就労を希望する場合は「夫の収入だけでは生活できない」という切迫性と「自己実現のため」という心理的充実を求める欲求が相対的に高いのに対し、パートタイムでの就労を希望する場合は「将来の貯蓄」という外延的な経済的理由が高くなる。また志望理由についても、自己実現よりも「心の健康や張りあいのため」を選ぶ割合が高かった。

#### 7.4 サポートネットワーク

世田谷区のサポートネットワークの特性をみると、徳島市に比べると親族や近隣により構成される部分が非常に小さくなっていった。また福岡市と比べた場合、妻方親族の比重が高いという傾向をみせる。さらに両市と比較した場合、「子どもを介して知り合った人」の割合が高いという特徴があった。先に見た転入率の高さとあわせて考えると、地域内に集積した関係がそのまま利用できるという状況ではない。当事者である女性が自ら選択し獲得していく「子どもを介して知り合った人」のネットワークか、妻方の実家によるサポートを期待するかという方向になっていくことがわかる。

特に妻方実家のサポートは多方面にわたる助けとなる様子を示しており、就労状況に対しても影響を与えていることが確認された。しかし妻方親族のサポートを得られるかどうかは、親族の物理的距離や健康状態など、本人の意思や志向とは無関係に決定される部分が大きいといえよう。

#### 7.5 支援サービス

世田谷区が提供する様々な支援サービスの認知と利用について確認していった結果、様々なサービスを「有効である」と考える割合は高い。ただし周知と利用の現状は改善の余地がありそうだ。

区が提供するサービスの認知については、区報などの広報誌を読んでいる場合は知っている割合が多くなる一方、読まない人々は逆に知る機会をほとんど失っている状況であるといえる。ネットワークや各種専門機関などで紹介される迂回路を経なければ、利用以前にサービスの存在を知らないという結果になってしまうことが憂慮されよう。

また利用状況からみてゆくと、積極的にサービスを利用し、かつ情報を収集する人は子育て仲間などのネットワーク構築も盛んであり、ひらたく言えば「活発な子育てをしている人」であった。ということは、子育てに活発でない人、つまり地域イベントなどへの参

加を通したネットワーク構築に積極的でなかったり、あるいは参加する機会がない人にとっては利用に対するハンディが生まれてしまうということでもある。先に見たネットワークの状況などから推し量るならば、むしろこういった活発でない層ほど育児支援サービスを届ける必要がある可能性が高い。

## 7.6 おわりに

本稿では、上記の調査・分析を通して、世田谷区における少子化と就業女性の支援ネットワークについての現状と課題を明らかにした。

本調査にご協力いただいた区民の方々をはじめ、世田谷区の将来を担う子どもたちとその家族のために、「東京一子育てしやすいまち世田谷」を実現していくことが求められる。今後、就労や子育てに関する施策を検討するうえで、今回の調査・分析を参考にさせていただければ幸いである。

【資料：調査票・単純集計表】

※記入欄内のパーセンテージは、回収票 1862 票から非該当・無回答を除いた有効回答数を分母として算出。

少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査

この調査は、子育て中の母親の置かれている現状を明らかにし、有効な支援策について検討することを目的として、世田谷区と九州工業大学が共同で行う調査です。

調査に関する質問などは、下記までお問い合わせさせていただきますようお願い申し上げます。

平成 19 年 11 月

世田谷区政策経営部政策研究担当課  
九州工業大学

【お問い合わせ先】

世田谷区政策経営部政策研究担当課  
〒154-8504  
世田谷区世田谷4-21-27 世田谷区役所第一庁舎内  
電話番号：03-5432-2243  
FAX 番号：03-5432-3075

【ご記入にあたってのお願い】

1. 調査票には、必ず封筒のあて名のご本人がご回答・ご記入ください。
2. 回答は、指示にしたがってあてはまる番号に○をつけるか、数字をご記入して下さい。
3. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆をお願いいたします。(ボールペンを同封しています。)
4. 該当する質問には、すべてお答えください。
5. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問文をお読みになりご記入ください。
6. この調査票は、**11月26日まで**にご記入のうえ、同封の封筒に入れてご返送くださるようお願いいたします(送出人名は、無記名で結構です)。

問 1 あなたは現在どちらにお住まいですか。町丁目でお答えください。

(記入例) 池尻 1 丁目・北沢 2 丁目・駒沢 3 丁目・船橋 4 丁目・八幡山 5 丁目など(無回答 25)

丁目

問 2 世田谷区にお住まいになって通算して何年になりますか。(無回答 10)

- |                   |                   |                    |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| 1. 5 年未満 30.6%    | 2. 5～10 年未満 26.0% | 3. 10～15 年未満 17.5% |
| 4. 15～20 年未満 5.9% | 5. 20～25 年未満 3.9% | 6. 25 年以上 16.1%    |

問 3 あなたが中学校を卒業したときにお住まいだった場所についてお伺いします。

- (1) 現在の住所からどれくらい離れていますか。通常の交通手段でかかる時間別に、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。(無回答 13)

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 現在の住所に住んでいた 5.7%        |
| 2. 15 分以内のところ 9.1%         |
| 3. 15 分以上 30 分以内のところ 8.1%  |
| 4. 30 分以上 1 時間以内のところ 16.9% |
| 5. 1 時間以上 2 時間以内のところ 22.4% |
| 6. 2 時間以上のところ 37.8%        |

- (2) それは世田谷区内ですか。(無回答 9)

- |              |
|--------------|
| 1. はい 20.8%  |
| 2. いいえ 79.2% |

問 4 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 10)

- |                  |                 |                  |
|------------------|-----------------|------------------|
| 1. 一戸建て持ち家 35.9% | 2. 一戸建て借家 5.1%  | 3. 分譲マンション 22.6% |
| 4. 賃貸マンション 17.9% | 5. 都営・区営住宅 2.2% | 6. 社宅・官舎・寮 8.9%  |
| 7. アパート 6.2%     | 8. その他 1.2%     | ( )              |

問 5 あなたは現在何歳ですか。(無回答 13)

平均 38.1 歳

問 6 現在あなたに配偶者(夫)はいらっしゃいますか(内縁の夫も含みます)。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 1)

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1. いる 95.3%     | 2. いない(離別) 3.9%       |
| 3. いない(死別) 0.4% | 4. 結婚したことがない(未婚) 0.4% |

その方は何歳ですか

(必ず「1.いる」に○をつけてください。(無回答 10)

平均 40.4 歳

問7 あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。「4. その他」の場合は、かつこの中に具体的に記入ください。(無回答 6)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 夫婦と子どもの世帯       | 86.2% |
| 2. 母子世帯            | 4.1%  |
| 3. 3世代世帯(親と夫婦と子ども) | 8.8%  |
| 4. その他             | 0.9%  |

問8 あなたは次にあげる団体・組織に加入していますか。(a)~(c)のそれぞれについて、「1. 非加入」「2. 加入」「3. 加入して積極的に参加」のなかから、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。

(a) 町会・自治会(無回答39)	1. 非加入 49.4%	2. 加入 49.0%	3. 加入して積極的に参加 1.6%
(b) 学校のPTA(無回答 38)	1. 非加入 44.7%	2. 加入 42.1%	3. 加入して積極的に参加 13.2%
(c) 地域生協・消費者団体(無回答 46)	1. 非加入 58.8%	2. 加入 40.3%	3. 加入して積極的に参加 0.9%

問9 あなたは、つぎにあげるような活動や集会に参加されていますか。過去1年のあいだに参加されたことがあるものすべてに○をつけてください。どれにも参加されなかった方は、「7. どれにも参加しなかった」に○をつけてください。(無回答 12)

- |                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| 1. 自治会・町会・婦人会などのイベント(お祭りや清掃活動など)    | 42.7% |
| 2. 子育てに関する地域活動(子育てサロンやNPO、ボランティアなど) | 25.7% |
| 3. 1と2以外のボランティア活動                   | 5.5%  |
| 4. 趣味・おけいごとのサークルや団体の活動              | 28.7% |
| 5. スポーツのサークルや団体の活動                  | 17.0% |
| 6. 住民運動団体・市民団体の活動                   | 2.0%  |
| 7. どれにも参加しなかった                      | 30.4% |

問10 もし、地域の小・中学校から次のようなことを頼まれたら、あなたは協力したいと思いますか。協力したい・してもよいと思うものすべてに○をつけてください。(無回答 0)

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. 学校の教育方針や目標を決める委員会への参加 | 24.3% |
| 2. 学校の活動を評価する委員会への参加     | 21.3% |
| 3. 「総合的な学習の時間」などの講師      | 14.7% |
| 4. 授業での教師のアシスタント         | 28.3% |
| 5. クラブ活動・部活動などの指導        | 13.9% |
| 6. 休日や放課後に行う体験活動や学習活動の指導 | 18.6% |
| 7. 学区の安全を守る巡回活動          | 54.5% |
| 8. PTAの役員                | 20.6% |

問11 お子さんは何人いらっしゃいますか。(無回答 2)

- |    |       |    |       |           |       |
|----|-------|----|-------|-----------|-------|
| 1人 | 45.1% | 2人 | 43.0% | 3人        | 10.7% |
| 4人 | 1.1%  | 5人 | 0.2%  | (平均 1.68) | 人     |

問12 あなたにとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。(無回答 20)

- |       |       |       |      |         |       |
|-------|-------|-------|------|---------|-------|
| 1. 0人 | 0.8%  | 2. 1人 | 5.0% | 3. 2人   | 47.6% |
| 4. 3人 | 41.5% | 5. 4人 | 4.0% | 6. 5人以上 | 1.6%  |

問13 お子さんについて伺います。(1)と(7)は実数値を、それ以外はあてはまる番号に○をつけてください。(お子さんが5人以上いる場合は、第4子の欄に一番下のお子さんについてご記入ください。)

	第1子	第2子(非該当 838)	第3子(非該当 1638)	第4子(末子)(non 1837)
(1)年齢はいくつですか。	(無回答 9) (平均)7.48歳	(無回答 5) (平均)6.42歳	(無回答 5) (平均)6.32歳	(無回答 2) (平均)5.00歳
(2)性別はどちらですか。	1. 男 52.3% 2. 女 47.7% (無回答 5)	1. 男 50.0% 2. 女 50.0% (無回答 7)	1. 男 56.4% 2. 女 43.6% (無回答 4)	1. 男 56.5% 2. 女 43.5% (無回答 2)
(3)通っている学校等はどれですか。 【○はひとつ】 (無回答 6/5/4/2)	1. 通っていない 18.2% 2. 幼稚園・保育園 25.5% 3. 公立小学校 33.6% 4. 国立・私立小学校 5.3% 5. 公立中学校 6.6% 6. 国立・私立中学校 4.4% 7. 中学校は既に卒業 6.4%	1. 通っていない 21.8% 2. 幼稚園・保育園 27.9% 3. 公立小学校 38.0% 4. 国立・私立小学校 5.7% 5. 公立中学校 2.3% 6. 国立・私立中学校 1.3% 7. 中学校は既に卒業 3.1%	1. 通っていない 19.5% 2. 幼稚園・保育園 28.6% 3. 公立小学校 45.0% 4. 国立・私立小学校 3.6% 5. 公立中学校 2.3% 6. 国立・私立中学校 0.0% 7. 中学校は既に卒業 0.9%	1. 通っていない 17.4% 2. 幼稚園・保育園 47.8% 3. 公立小学校 30.4% 4. 国立・私立小学校 4.3% 5. 公立中学校 0.0% 6. 国立・私立中学校 0.0% 7. 中学校は既に卒業 0.0%
(4)習い事や塾などに通っていますか。 【○はいくつでも】 (無回答 23/20/10/3)	1. 習い事 57.1% (読書やスポーツ、英会話など月謝があるもの) 2. 受験のための塾 15.8% 3. 補習塾 8.6% 4. 家庭教師 1.6% 5. 自治体主催の教室・サークル(児童館・新BOPなど) 12.7% 6. 民間の学習クラブ 1.0% 7. 地域のスポーツ活動 10.0%(少年野球やサッカー、ミニバケットなど) 8. 通っていない 28.5%	1. 習い事 54.9% (読書やスポーツ、英会話など月謝があるもの) 2. 受験のための塾 11.3% 3. 補習塾 8.0% 4. 家庭教師 0.9% 5. 自治体主催の教室・サークル(児童館・新BOPなど) 10.3% 6. 民間の学習クラブ 0.4% 7. 地域のスポーツ活動 12.4%(少年野球やサッカー、ミニバケットなど) 8. 通っていない 45.0%	1. 習い事 54.7% (読書やスポーツ、英会話など月謝があるもの) 2. 受験のための塾 7.9% 3. 補習塾 10.7% 4. 家庭教師 0.0% 5. 自治体主催の教室・サークル(児童館・新BOPなど) 7.9% 6. 民間の学習クラブ 0.5% 7. 地域のスポーツ活動 13.6%(少年野球やサッカー、ミニバケットなど) 8. 通っていない 30.8%	1. 習い事 50.0% (読書やスポーツ、英会話など月謝があるもの) 2. 受験のための塾 0.0% 3. 補習塾 13.6% 4. 家庭教師 0.0% 5. 自治体主催の教室・サークル(児童館・新BOPなど) 9.1% 6. 民間の学習クラブ 0.0% 7. 地域のスポーツ活動 18.2%(少年野球やサッカー、ミニバケットなど) 8. 通っていない 36.4%
(5)国立・私立小学校の受験について 【○はひとつ】 (無回答 51/24/12/2)	1. 受験した 16.2% 2. 受験しなかった 43.9% 3. こわらする予定 7.1% 4. 予定していない 32.8%	1. 受験した 16.2% 2. 受験しなかった 43.9% 3. こわらする予定 7.1% 4. 予定していない 32.8%	1. 受験した 10.3% 2. 受験しなかった 43.5% 3. こわらする予定 6.8% 4. 予定していない 39.4%	1. 受験した 6.6% 2. 受験しなかった 46.7% 3. こわらする予定 6.1% 4. 予定していない 40.6%
(6)国立・私立中学校の受験について 【○はひとつ】 (無回答 129/75/23/4)	1. 受験した 8.4% 2. 受験しなかった 10.5% 3. こわらする予定 29.1% 4. 予定していない 52.0%	1. 受験した 2.5% 2. 受験しなかった 5.1% 3. こわらする予定 33.2% 4. 予定していない 59.2%	1. 受験した 0.0% 2. 受験しなかった 4.0% 3. こわらする予定 29.4% 4. 予定していない 66.7%	1. 受験した 0.0% 2. 受験しなかった 0.0% 3. こわらする予定 33.3% 4. 予定していない 66.7%
(7)平日の就寝時刻は何時頃ですか。	午後 (無回答 28) (平均) 10時 12分頃	午後 (無回答 25) (平均) 9時 12分頃	午後 (無回答 11) (平均) 9時 10分頃	午後 (無回答 2) (平均) 9時 14分頃

問 14 あなたのご両親についてうかがいます。夫がいらっしゃる方は夫の父親/母親についても  
お答えください。(2)~(4)は、生存している場合のみお答えください。

	あなたの父親	あなたの母親	夫の父親	夫の母親
(1)どちらに住んでいらしゃいますか。 <small>※通常の交通手段でかかる時間別に○をつけてください。 非該当 0/0/87/87 無回答 21/10/72/44</small>	1.同居・敷地内 4.7% 2.15分以内 7.4% 3.15~30分以内 5.4% 4.30分~1時間 11.0% 5.1~2時間以内 19.1% 6.2時間以上 32.7% 7.亡くなった 19.8%	1.同居・敷地内 7.1% 2.15分以内 8.7% 3.15~30分以内 6.4% 4.30分~1時間 13.9% 5.1~2時間以内 21.5% 6.2時間以上 35.6% 7.亡くなった 6.5%	1.同居・敷地内 6.8% 2.15分以内 6.4% 3.15~30分以内 4.7% 4.30分~1時間 9.3% 5.1~2時間以内 16.5% 6.2時間以上 31.8% 7.亡くなった 24.5%	1.同居・敷地内 9.1% 2.15分以内 7.9% 3.15~30分以内 5.8% 4.30分~1時間 11.7% 5.1~2時間以内 19.1% 6.2時間以上 37.4% 7.亡くなった 9.1%
(2)年齢はいくつですか。(非該当 364/121/505/2 以下(3)(4)同) 無回答 23/12/73/48	1.150歳未満 0.2% 2.150~60歳未満 11.1% 3.60~70歳未満 48.0% 4.70歳以上 40.7%	1.150歳未満 0.3% 2.150~60歳未満 17.1% 3.60~70歳未満 58.4% 4.70歳以上 29.1%	1.150歳未満 0.2% 2.150~60歳未満 7.9% 3.60~70歳未満 44.3% 4.70歳以上 47.5%	1.150歳未満 0.3% 2.150~60歳未満 12.6% 3.60~70歳未満 50.0% 4.70歳以上 37.2%
(3)どの程度会っていらしゃいますか。 無回答 23/12/76/48	1.ほとんど毎日 8.9% 2.少なくとも週1回 10.6% 3.少なくとも月1回 25.2% 4.年に1~6回程度 49.4% 5.ほとんど会わない 6.0%	1.ほとんど毎日 12.3% 2.少なくとも週1回 13.0% 3.少なくとも月1回 27.1% 4.年に1~6回程度 44.4% 5.ほとんど会わない 3.2%	1.ほとんど毎日 8.1% 2.少なくとも週1回 8.7% 3.少なくとも月1回 20.9% 4.年に1~6回程度 53.6% 5.ほとんど会わない 8.7%	1.ほとんど毎日 9.6% 2.少なくとも週1回 9.2% 3.少なくとも月1回 20.8% 4.年に1~6回程度 52.3% 5.ほとんど会わない 8.0%
(4)日常生活を過ごす上で、手助けが必要ですか。 無回答 60/45/111/88	1.必要ない 81.3% 2.一部の手助けが必要 16.0% 3.全体的手助けが必要 2.7%	1.必要ない 79.1% 2.一部の手助けが必要 18.7% 3.全体的手助けが必要 2.2%	1.必要ない 85.3% 2.一部の手助けが必要 11.5% 3.全体的手助けが必要 3.2%	1.必要ない 83.6% 2.一部の手助けが必要 14.3% 3.全体的手助けが必要 2.1%

問 15 以下のような方々は、それぞれの場所に何人いらっしゃいますか。通常の交通手段でかかる時間別にご記入ください。該当しない箇所には、必ず「0」人とご記入ください。

(1) あなたのきょうだい(無回答 9 かっこ内は有効平均人数)

同居・同じ敷地内 ( 0.03 )人 15分以内 ( 0.09 )人 15~30分以内 ( 0.08 )人  
30分~1時間以内 ( 0.23 )人 1~2時間以内 ( 0.38 )人 2時間以上 ( 0.54 )人

(2) あなたの夫のきょうだい(非該当 87・無回答 9 かっこ内は有効平均人数)

同居・同じ敷地内 ( 0.03 )人 15分以内 ( 0.07 )人 15~30分以内 ( 0.08 )人  
30分~1時間以内 ( 0.18 )人 1~2時間以内 ( 0.36 )人 2時間以上 ( 0.57 )人

(3) 親、きょうだい以外で親しくしている親せき(無回答 8 かっこ内は有効平均人数)

同居・同じ敷地内 ( 0.03 )人 15分以内 ( 0.14 )人 15~30分以内 ( 0.13 )人  
30分~1時間以内 ( 0.30 )人 1~2時間以内 ( 0.48 )人 2時間以上 ( 0.89 )人

(4) あなたが親しくしている友人(無回答 8 かっこ内は有効平均人数)

同居・同じ敷地内 ( 0.30 )人 15分以内 ( 2.39 )人 15~30分以内 ( 1.44 )人  
30分~1時間以内 ( 1.44 )人 1~2時間以内 ( 1.44 )人 2時間以上 ( 1.28 )人

問 16 あなたの生活において何かと助けあったり、支援してくれる方々を思い浮かべてください。何人いますか。(無回答 0)

平均 5.73 人

以降の質問では、その方々のうち、思い浮かんだ順に 5 人までについてうかがいます (1 人目の方から順に、A さん、B さん、C さん、D さん、E さんとします)。5 人に満たない場合は、思い浮かぶ方々の人数分だけ、お答えください。

まず、その方々がどなたであるか、ご自分でわかるように、イニシャルや愛称・ニックネームなどを下の欄に記入してください。(ここでのお書きになった内容は、集計・分析などには使いませんので、すべての回答が終わった時点で消していただいても構いません。)

A さん: \_\_\_\_\_ B さん: \_\_\_\_\_ C さん: \_\_\_\_\_

D さん: \_\_\_\_\_ E さん: \_\_\_\_\_

(1)上であげていただいたそれぞれの方とは、どのような関係にあたりますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(非該当 A:50 B:110 C:250 D:460 E:635 以下(2)~(6)同)  
(無回答 A:8 B:13 C:16 D:15 E:18)

	A さん	B さん	C さん	D さん	E さん
夫 平均カウント数 0.59 人 →	1	1	1	1	1
母親 0.66 人 →	2	2	2	2	2
父親 0.36 人 →	3	3	3	3	3
夫の母親 0.34 人 →	4	4	4	4	4
夫の父親 0.16 人 →	5	5	5	5	5
子ども 0.08 人 →	6	6	6	6	6
きょうだい 0.34 人 →	7	7	7	7	7
夫のきょうだい 0.07 人 →	8	8	8	8	8
その他の親せき 0.13 人 →	9	9	9	9	9
近所の人 0.24 人 →	10	10	10	10	10
職場や仕事を通じて知り合った人 0.13 人 →	11	11	11	11	11
学生時代の友人 0.15 人 →	12	12	12	12	12
趣味のグループの人 0.04 人 →	13	13	13	13	13
子どもを介して知り合った人 0.75 人 →	14	14	14	14	14
その他の友人 0.11 人 →	15	15	15	15	15

(2) それぞれの方の性別はどちらですか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 A:3 B:9 C:8 D:13 E:23)

	A さん	B さん	C さん	D さん	E さん
男性 平均カウント数 1.34 人 →	1	1	1	1	1
女性 平均カウント数 2.94 人 →	2	2	2	2	2

(3) それぞれの方の年齢を、以下に記入してください(わからない場合は、おおよその年齢で結構です)。(無回答 A:6 B:12 C:11 D:11 E:14)

Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
平均	平均	平均	平均	平均
48.4 歳	54.6 歳	49.9 歳	47.3 歳	45.9 歳

(4) それぞれの方とあなたは、どのくらいの頻度で会いますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 Aさん2 Bさん6 Cさん7 Dさん8 Eさん17)

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
ほとんど毎日	1	1	1	1	1
平均カウント数 1.26人					
少なくとも週1回	2	2	2	2	2
0.88人					
少なくとも月1回	3	3	3	3	3
1.15人					
年に数回	4	4	4	4	4
1.00人					

(5) それぞれの方はどちらにお住まいですか。通常の交通手段でかかる時間別に、あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 Aさん1 Bさん3 Cさん4 Dさん8 Eさん10)

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
同居・同じ敷地内	1	1	1	1	1
平均カウント数 1.03人					
15分以内	2	2	2	2	2
1.11人					
15分~30分以内	3	3	3	3	3
0.44人					
30分~1時間以内	4	4	4	4	4
0.53人					
1時間~2時間以内	5	5	5	5	5
0.62人					
2時間以上	6	6	6	6	6
0.57人					

(6) それぞれの方からどのようなサポートを受けていますか。次のうちあてはまる番号すべてに○をつけてください。育児に関する項目はお子さんが小さいときを思い出してお答えください。(無回答 Aさん1 Bさん3 Cさん2 Dさん4 Eさん6)

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
平均カウント数					
あなたが病気の時に家事や育児を頼む	1	1	1	1	1
1.72人					
人手がいるときに気軽に手伝いを頼める	2	2	2	2	2
1.92人					
気晴らしに一緒にでかける	3	3	3	3	3
2.17人					
個人的な悩みごとについての相談	4	4	4	4	4
2.26人					
子どもの教育や受験についての相談	5	5	5	5	5
2.06人					
急な用事や残業時に子どもを預かってくれる	6	6	6	6	6
1.65人					
子どもが病気の時に世話をしてくれる	7	7	7	7	7
1.20人					
保育園・幼稚園の送り迎えをしてくれる	8	8	8	8	8
0.96人					

問17 夫がいらっしゃる方にお聞きします。あなたの夫は、家事や育児にどの程度参加していますか。それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。(非該当 87)

		毎日	週3~4回	週1~2回	月1~2回	全くしない
家事	日常の買物 (無回答 36)	1 (2.9%)	2 (5.3%)	3 (37.7%)	4 (34.3%)	5 (19.8%)
	部屋の掃除 (無回答 36)	1 (1.7%)	2 (2.4%)	3 (19.2%)	4 (33.1%)	5 (43.5%)
	洗濯 (無回答 34)	1 (4.1%)	2 (3.6%)	3 (11.5%)	4 (21.5%)	5 (59.4%)
	食事の支度 (無回答 38)	1 (3.6%)	2 (3.5%)	3 (15.7%)	4 (27.4%)	5 (49.9%)
	ごみ出し (無回答 52)	1 (1.7%)	2 (2.4%)	3 (19.2%)	4 (33.1%)	5 (43.5%)
育児	風呂に入れる(入れていた) (無回答 20)	1 (12.4%)	2 (17.6%)	3 (20.1%)	4 (19.4%)	5 (30.5%)
	着替えをさせる(させた) (無回答 29)	1 (12.1%)	2 (17.9%)	3 (35.2%)	4 (17.5%)	5 (17.2%)
	遊び相手になる(になった) (無回答 23)	1 (27.7%)	2 (20.9%)	3 (39.5%)	4 (9.5%)	5 (2.4%)
	寝かしつける(をした) (無回答 35)	1 (9.7%)	2 (12.9%)	3 (28.4%)	4 (21.4%)	5 (27.7%)
	保育園・幼稚園に送る(送った) (無回答 204)	1 (10.7%)	2 (5.0%)	3 (9.6%)	4 (27.1%)	5 (47.6%)

問18 あなたは夫に、もっと家事・育児を分担してほしいと思いますか。もっとも近い番号にひとつだけ○をつけてください。(非該当 87・無回答 19)

1. もっと分担してほしい	26.8%
2. 分担しているところをちゃんとやってほしい	9.2%
3. 現状でよい	51.1%
4. 始めから協力を期待していない	12.9%

問19 次のようなことがこの2~3ヶ月ほどの間にどのくらいありましたか。それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。なお、(e)~(h)については、夫がいらっしゃらない場合、仕事についていない場合には、「5 あてはまらない」に○をつけてください。(無回答 10)

		全く なかった	ごくまれ にあった	ときどき あった	何度も あった	あてはま らない
(a) 家庭での自分の負担が大きすぎると感じたこと (無回答 44)	1 (20.3%)	2 (27.8%)	3 (26.9%)	4 (25.0%)		
(b) 育児から解放されたいと思ったこと (無回答 38)	1 (24.6%)	2 (31.4%)	3 (27.1%)	4 (16.9%)		
(c) 子どもの教育上の心配ごと (無回答 47)	1 (15.9%)	2 (30.2%)	3 (28.7%)	4 (25.2%)		
(d) 子どもの養育費・教育費が家計を 圧迫していると思ったこと (無回答 44)	1 (44.2%)	2 (21.5%)	3 (16.2%)	4 (18.0%)		
(e) 自分の子育ての努力を 夫が理解してくれないと感じること (無回答 79)	1 (38.1%)	2 (29.0%)	3 (18.5%)	4 (14.5%)	5 (87)	
(f) 職場での人間関係で悩んだこと (無回答 23)	1 (45.3%)	2 (24.4%)	3 (17.3%)	4 (13.0%)	5 (967)	
(g) 職場で「育児への理解が不足している」と思ったこと (無回答 23)	1 (57.2%)	2 (19.4%)	3 (12.8%)	4 (10.6%)	5 (967)	
(h) 職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと (無回答 23)	1 (48.2%)	2 (22.2%)	3 (13.6%)	4 (15.9%)	5 (967)	



問 20 あなたは以下の項目についてどの程度満足していますか。それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。なお、夫や親御さんがいらっしゃらない場合、仕事についていない場合には、「5 あてはまらない」に○をつけてください。

	非常に満足	まあまあ満足	やや不満	非常に不満	あてはまらない
(a)生活全般について (無回答 36) →	1 (14.6%)	2 (65.7%)	3 (16.8%)	4 (3.0%)	
(b)夫との関係について (無回答 30) →	1 (20.0%)	2 (55.8%)	3 (17.1%)	4 (7.0%)	5 (8.7)
(c)子どもとの関係について (無回答 40) →	1 (41.3%)	2 (52.2%)	3 (5.8%)	4 (0.8%)	
(d)あなたの親との関係について (無回答 56) →	1 (31.4%)	2 (57.9%)	3 (8.6%)	4 (2.2%)	5 (46)
(e)夫の親との関係について (無回答 48) →	1 (19.5%)	2 (58.8%)	3 (15.5%)	4 (6.2%)	5 (160)
(f)地域生活について (無回答 54) →	1 (10.2%)	2 (73.4%)	3 (14.5%)	4 (1.8%)	
(g)職業生活について (無回答 112) →	1 (12.1%)	2 (60.7%)	3 (22.2%)	4 (5.0%)	5 (967)

問 21 次にあげるような意見についてあなたはどのようにお考えですか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近い番号にひとつだけ○をつけてください。(無回答 10)

	そう思う	まあそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない
(a)夫は外で働き妻は家庭を守る方がよい (無回答 17)	1 (9.3%)	2 (37.7%)	3 (34.5%)	4 (18.5%)
(b)男の子と女の子は違った育て方をする方がよい(無 19)	1 (10.4%)	2 (36.1%)	3 (39.8%)	4 (13.7%)
(c)夫も家事や育児を平等に分担する方がよい(無回答 23)	1 (14.7%)	2 (32.6%)	3 (45.2%)	4 (7.5%)
(d)子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を待たず育児に専念した方がよい(無回答 17)	1 (30.6%)	2 (31.9%)	3 (24.1%)	4 (13.4%)
(e)結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない(無 16)	1 (22.0%)	2 (31.7%)	3 (29.1%)	4 (17.1%)
(f)夫婦別姓が法的に認められる方がよい (無回答 22)	1 (17.8%)	2 (24.2%)	3 (42.0%)	4 (16.0%)

問 22 小学生のお子さんがいらっしゃる方にお聞きします。世田谷の子どもや家庭、世田谷の地域、公立学校の様子について、あなたは次のようなことを感じますか。それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。(非該当 845)

	非常に感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない
(a)子どもたちの学習意欲が低下している(無回答 17) →	1 (15.8%)	2 (44.4%)	3 (38.1%)	4 (1.7%)
(b)子どもたちの道徳心や公共心がうすれている(無 14)	1 (23.2%)	2 (51.3%)	3 (24.8%)	4 (0.6%)
(c)学校に協力的でない家庭が多い (無回答 19) →	1 (15.2%)	2 (44.0%)	3 (39.3%)	4 (1.5%)
(d)地域の大人が子どもにかかわらなくなっている(無 16)	1 (15.7%)	2 (53.8%)	3 (28.6%)	4 (1.9%)
(e)先生の教える力が低下している (無回答 22) →	1 (15.9%)	2 (39.4%)	3 (42.2%)	4 (2.5%)
(f)学校の先生は信頼できる (無回答 23) →	1 (9.5%)	2 (56.1%)	3 (30.1%)	4 (4.3%)
(g)公立学校ではなく、できれば 私立・国立の中学校に行かせたい(無回答 20)	1 (33.8%)	2 (27.3%)	3 (28.2%)	4 (10.7%)

問 23 区の子育て支援の取り組みについてお伺いします。あなたは次の取り組みを知っていますか。また、どこで知りましたか。それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。「5. その他」の場合は、かっこの中に情報の入手先をご記入ください。

	知っている					知らない
	区広報誌で知った	区ホームページで知った	友人に聞いた	親・家族に聞いた	その他 (※かっこの中に記入してください)	
(1) 親子が自由に遊べる 「子育て広場」(無回答 7) ※子ども子育て総合センター(経堂駅徒歩6分・就学前)、 子育てステーション成城(成城学園駅ビル内・3歳まで)	1 29.5%	2 3.5%	3 9.7%	4 0.3%	5 5.3%	6 51.7%
(2) 有料で理由を問わずお子さんを預かる 「ほっとステイ」(無回答 8) ※子ども子育て総合センター(経堂駅徒歩6分・就学前)、 子育てステーション成城(成城学園駅ビル内・3歳まで)	1 24.1%	2 3.1%	3 7.7%	4 0.2%	5 4.5%	6 60.4%
(3) 子育てについての様々な講座やイベントの 「子育てカレッジ」(無回答 11) ※子ども子育て総合センター(経堂駅徒歩6分)にて開催。	1 19.6%	2 1.8%	3 1.5%	4 0.1%	5 1.7%	6 75.4%
(4) 病気の回復期などで、保育室等での集団保育が困難な時期にお子さんを預かる 「病児・病後児保育」(無回答 6) ※ハグルーム(下馬3丁目)、シェ・モア(中町4丁目)、 きていルーム(松原6丁目)	1 23.1%	2 4.6%	3 4.2%	4 0.6%	5 12.5%	6 54.9%
(5) 子育てや育児に関する相談や案内を行う 「世田谷子育てテレフォン」(無回答 11) ※電話番号 5451-1211 平日 17時～22時、土日祝日 9時～22時受付。	1 53.0%	2 5.2%	3 1.0%	4 0.6%	5 8.0%	6 32.1%
(6) 出産予定1ヶ月前から生後6ヶ月の子育て家庭へ3回まで無料でヘルパーを派遣する 「さんさんサポート」(無回答 9)	1 28.3%	2 3.5%	3 4.4%	4 0.5%	5 10.0%	6 53.3%
(7) 保育園と幼稚園機能を一体化し保護者の仕事の有無にかかわらず子育て支援を行う 「認定こども園」(無回答 6) ※区立幼稚園を用途転換し、私立の野沢こども園(野沢1丁目)と羽根木こども園(代田4丁目)として、20年4月に開設。	1 21.6%	2 3.7%	3 5.4%	4 0.3%	5 4.5%	6 64.5%
(8) お父さんの子育てを応援する 「お父さんのための子育て応援講座」(無回答 22) ※男女共同参画センター「らぶらす」(下北沢駅徒歩5分 北沢2丁目北沢タウンホール 9～11階)にて開催。	1 15.0%	2 1.3%	3 0.7%	4 0.1%	5 1.0%	6 82.1%
(9) 保護者の仕事などの理由で放課後に家庭でみられない小学1～3年のお子さんを預かる遊びと生活の場 「新BOP内学童クラブ」(無回答 12)	1 15.8%	2 2.8%	3 24.5%	4 2.0%	5 23.4%	6 24.0%
(10) 地域の中で多様な子育て支援を行う 「NPO団体などの子育て支援活動」(無回答 11) ※子育て支援者になるための「保育サポーター養成講座」、乳幼児を連れて安心して利用できる「子育てカフェ」、身近な地域で気軽に参加できる支えあいの場「子育てサロン」	1 22.5%	2 3.1%	3 6.6%	4 0.3%	5 4.0%	6 63.4%

問 24 問 23 であげた各取り組みを、あなたのお宅では利用したことがありますか。あるいは、利用したいと思いますか。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。  
(お子さんが大きい方は、小さかったときのことを思い出してお答えください。)

	現在 利用している ことがある	これから 利用したい	前 からあった 利用して みたかった	思 わな い	利 用 し た い と は	わ か ら な い
(1) 子育て広場 (無回答 33) →	1 (13.3%)	2 (16.9%)	3 (27.8%)	4 (18.5%)	5 (23.5%)	
(2) ほっとステイ (無回答 30) →	1 (2.4%)	2 (18.5%)	3 (27.5%)	4 (23.7%)	5 (27.8%)	
(3) 子育てカレッジ (無回答 40) →	1 (1.5%)	2 (19.5%)	3 (23.3%)	4 (21.8%)	5 (33.8%)	
(4) 病児・病後児保育 (無回答 42) →	1 (3.2%)	2 (18.7%)	3 (20.1%)	4 (21.6%)	5 (36.4%)	
(5) 世田谷子育てテレフォン (無回答 39) →	1 (5.8%)	2 (19.6%)	3 (16.3%)	4 (19.3%)	5 (38.9%)	
(6) さんさんサポート (無回答 39) →	1 (4.8%)	2 (10.6%)	3 (31.6%)	4 (21.0%)	5 (31.9%)	
(7) 認定こども園 (無回答 42) →	1 (0.7%)	2 (13.0%)	3 (21.6%)	4 (24.7%)	5 (39.9%)	
(8) お父さんのための子育て応援講座(無回答 44)	1 (0.6%)	2 (8.3%)	3 (12.5%)	4 (26.0%)	5 (52.6%)	
(9) 新BOP内学童クラブ (無回答 17) →	1 (27.5%)	2 (28.3%)	3 (6.5%)	4 (12.7%)	5 (25.9%)	
(10) NPO 団体などの子育て支援活動(無回答 38)	1 (5.9%)	2 (20.8%)	3 (15.4%)	4 (14.3%)	5 (43.6%)	

問 25 あなたにとって、仕事と子育てを両立しやすい社会とはどのようなものですか。

(1) A 群・B 群・C 群の中から、それぞれもっとも重要だと思う番号に、ひとつずつ○をつけてください。

(A 群) (無回答 10)

(○はひとつだけ)

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 職場の理解がある (子育てに協力的な雰囲気がある) | 47.2% |
| 2. 職場の子育て支援制度が充実している         | 30.8% |
| 3. 在宅勤務など多様で柔軟な働き方がみとめられている  | 22.0% |

(B 群) (無回答 11)

(○はひとつだけ)

- |  |       |
|--|-------|
| 4. 地域で子育てをサポートする雰囲気としくみがある               | 28.1% |
| 5. 区の子育て支援策が充実している                       | 29.1% |
| 6. 国などからの子育て世帯への手当金 (支援金・医療費等助成) が充実している | 42.8% |

(C 群) (無回答 17)

(○はひとつだけ)

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 7. 夫が育児や家事に積極的に参加する             | 45.4% |
| 8. 親やきょうだい近くに住み、育児を手伝ってくれる      | 26.0% |
| 9. ベビーシッターや家事代行などの専門サービスが利用しやすい | 28.6% |

(2) では、○をつけた3つのなかでもっとも重要だと思うものはどれですか。1 番から 9 番まで、あてはまるものの数字を記入してください。(無回答 21)

1	(18.1%)	2	(10.0%)	3	(8.5%)	4	(5.4%)	5	(6.1%)
6	(17.3%)	7	(18.9%)	8	(9.8%)	9	(5.9%)		

問 26 子育てと仕事の両立支援を図るために、以下の施策はどれくらい有効だと思いますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近い番号にひとつだけ○をつけてください。

	非常に 有効	どちらか といえば有効	あまり 有効でない	まったく 有効でない
(a) 認可保育園をふやす (無回答 23) →	1 (57.2%)	2 (37.2%)	3 (4.6%)	4 (1.1%)
(b) 保育時間の延長、休日保育、(無回答 14) → 病時・病後児保育などのサービスを拡大する	1 (67.0%)	2 (28.0%)	3 (4.0%)	4 (1.0%)
(c) 仕事の仕方にあわせて深夜など 24 時間の保育を実施する(無回答 18)	1 (30.5%)	2 (43.1%)	3 (22.1%)	4 (4.3%)
(d) 小学校にあがった後の (無回答 14) → 新 BOP などの居場所確保、始業前の受け入れ	1 (62.9%)	2 (34.0%)	3 (2.6%)	4 (0.5%)
(e) 乳幼児や思春期など発育不安な時に 気軽に相談できる場を充実する(無回答 15)	1 (33.7%)	2 (54.0%)	3 (11.5%)	4 (0.8%)
(f) 地域の中で NPO 活動やボランティア団体と 協力して子育て支援を広げる(無回答 21)	1 (22.8%)	2 (61.5%)	3 (14.9%)	4 (0.8%)
(g) 子どもや親が病気などの場合に 支援するサービスを充実する(無回答 15)	1 (59.8%)	2 (36.8%)	3 (3.0%)	4 (0.4%)
(h) 家庭での家事や育児の代行サービスを 充実する(無回答 22)	1 (31.0%)	2 (48.6%)	3 (19.2%)	4 (1.1%)
(i) 家庭と仕事の両立のため事業者 (企業) を支援する(無回答 21)	1 (41.1%)	2 (42.1%)	3 (14.7%)	4 (2.1%)
(j) 家族 (夫) の育児や家事への参加を進める 施策を充実する(無回答 21)	1 (38.0%)	2 (40.1%)	3 (21.3%)	4 (2.5%)

問 27 学校教育について、現在取り入れたり検討されたりしている次のような取り組みについて、どう思われますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近い番号にひとつだけ○をつけてください。

	たいへん 良い	どちらか といえば良い	あまり 良くない	良くない
(a) 「総合的な学習の時間」の実施 (無回答 38) →	1 (18.9%)	2 (57.3%)	3 (19.1%)	4 (4.6%)
(b) 学校選択制の導入 (無回答 17) → (公立小・中学校の学区の自由化)	1 (27.7%)	2 (47.7%)	3 (20.7%)	4 (4.3%)
(c) 公立の中高一貫校の設置 (無回答 23) →	1 (27.7%)	2 (53.4%)	3 (16.6%)	4 (2.2%)
(d) 学力の高い子は飛び級が出来る制度(無回答 23) →	1 (11.6%)	2 (33.2%)	3 (44.9%)	4 (10.3%)
(e) 保護者・生徒が学校や先生を評価するしくみ (無回答 22)	1 (19.0%)	2 (42.8%)	3 (31.0%)	4 (7.3%)
(f) 教師・保護者以外の人や外部機関が 学校を評価するしくみ(無回答 20)	1 (34.4%)	2 (48.0%)	3 (14.5%)	4 (3.0%)

問 28 あなたのお宅で現在利用している・利用したことがある保育施設・保育サービスすべてに○をつけてください。どれも利用したことのない方は、「12.いずれも利用したことはない」に○をつけてください。(無回答 9)

1.区立保育園 22.5%	2.認可の私立保育園 13.7%	3.公立幼稚園 7.1%	4.私立幼稚園 45.5%
5.認証保育所 9.8%	6.事業所内保育施設 1.7%	7.保育ママ 3.3%	8.保育室 6.7%
9.無認可保育施設 9.6%	10.ベビーシッター 12.8%	11.「ふれあい子育て」(社会福祉協議会) 6.3%	
12.いずれも利用したことはない 17.4%			

問 29 あなたのお宅でこれから利用を希望する・今後も利用を希望する保育施設・保育サービスすべてに○をつけてください。お子さんが大きい方は、「12.いずれも利用する予定はない」に○をつけてください。(無回答 10)

1.区立保育園 19.1%	2.認可の私立保育園 10.9%	3.公立幼稚園 11.1%	4.私立幼稚園 29.5%
5.認証保育所 5.9%	6.事業所内保育施設 2.2%	7.保育ママ 2.7%	8.保育室 4.0%
9.無認可保育施設 3.0%	10.ベビーシッター 9.9%	11.「ふれあい子育て」(社会福祉協議会) 8.0%	
12.いずれも利用する予定はない 42.1%			

問 30 あなたのお宅で、お子さんの幼稚園・保育園を選ぶ際に、重視する・重視した点はどれですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。お子さんの大きい方は、当時を思い出して、お答えください。(無回答 8)

(○は3つまで)

1. 待たずに入れる、あるいは随分に入れる 19.4%
2. 自宅から近くにある 71.0%
3. 職場から送り迎えしやすい場所にある 14.4%
4. 英語学習など幼児教育の内容が充実している 8.9%
5. 自然食材など子どもの健康への配慮がしっかりしている 10.1%
6. 保育時間を希望にあわせて設定できる 11.7%
7. 職員の質や運営方針がよい 60.0%
8. 施設や設備環境が良い 32.8%
9. 費用が手ごろ 18.7%
10. 仲の良いお母さんが子どもを通わせている(通わせる予定) 5.3%
11. 地域での評判が良い 25.7%
12. 国立・私立小学校受験に有利 2.8%
13. 制服のデザインが良い 0.6%

問 31 以下の質問について、それぞれについて、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。なお、配偶者(夫)がいらっしゃらない場合は「あなた」の欄だけお答えください。

	あなた	配偶者(夫) (非該当 87)
(1) 最後に卒業した学校はどちらですか。 【○はひとつ】	1. 中学校 1.0% (無回答 13) 2. 高校 16.6% 3. 短大・高専 39.0% 4. 大学・大学院 43.4%	1. 中学校 1.1% (無回答 17) 2. 高校 14.4% 3. 短大・高専 8.9% 4. 大学・大学院 75.5%
(2) 現在どのような形で働いていらっしゃいますか。 【○はひとつ】	1. 自営業・家族従業者 8.5% (無回答 8) 2. 会社経営者・役員 0.5% 3. フルタイム(常勤)の被雇用者 18.2% 4. アルバイト・パートタイマー 20.6% (派遣・契約社員・嘱託を含む) 5. 現在は仕事をしていない 52.2%	1. 自営業・家族従業者 19.8% (無回答 7) 2. 会社経営者・役員 7.7% 3. フルタイム(常勤)の被雇用者 70.2% 4. アルバイト・パートタイマー 1.6% (派遣・契約社員・嘱託を含む) 5. 現在は仕事をしていない 0.7%
(3) 現在している仕事の種類は、大きく分けてつぎのどれにあたりますか。 【○はひとつ】	1. 専門職 17.0% (無回答 11) (教員、個人教師、弁護士、医師、看護師、芸術家、スポーツ選手、宗教家、技術者など) 2. 管理職 1.9% (課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長など) 3. 事務職 17.1% (総務・企画事務、経理事務、情報機器のオペレーター、校正など) 4. 販売職 5.0% (小売店主、販売員、外勤のセールスマン、外交員など) 5. 生産工程・労務職 0.8% (大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) 6. サービス職 5.8% (料理人、美容師、クリーニング職、ウエイトレス、家政婦、タクシー運転手など) 7. 保安職 0.2% (警官、自衛官、守衛など) 8. 農林漁業従事者 0.0% 9. 現在は仕事をしていない 52.2%	1. 専門職 25.3% (無回答 33) (教員、個人教師、弁護士、医師、看護師、芸術家、スポーツ選手、宗教家、技術者など) 2. 管理職 33.0% (課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長など) 3. 事務職 17.1% (総務・企画事務、経理事務、情報機器のオペレーター、校正など) 4. 販売職 9.6% (小売店主、販売員、外勤のセールスマン、外交員など) 5. 生産工程・労務職 6.1% (大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) 6. サービス職 6.7% (料理人、美容師、クリーニング職、ウエイトレス、家政婦、タクシー運転手など) 7. 保安職 1.4% (警官、自衛官、守衛など) 8. 農林漁業従事者 0.2% 9. 現在は仕事をしていない 0.7%
(4) 昨年の年収は税込みでいくらくらいですか。 【○はひとつ】	1. なし 51.9% (無回答 17) 2. 103万円未満 18.7% 3. 103～200万円未満 5.7% 4. 200～400万円未満 8.4% 5. 400～600万円未満 7.9% 6. 600～800万円未満 4.9% 7. 800～1000万円未満 1.1% 8. 1000～1200万円未満 0.5% 9. 1200～1400万円未満 0.2% 10. 1400～1600万円未満 0.1% 11. 1600万円以上 0.6%	1. なし 0.3% (無回答 49) 2. 103万円未満 0.7% 3. 103～200万円未満 0.9% 4. 200～400万円未満 10.8% 5. 400～600万円未満 19.1% 6. 600～800万円未満 21.2% 7. 800～1000万円未満 15.9% 8. 1000～1200万円未満 13.5% 9. 1200～1400万円未満 6.4% 10. 1400～1600万円未満 4.0% 11. 1600万円以上 7.1%

問 32 あなたは以下の各時点でお仕事をなさっていましたか。それぞれあてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。

(1) 結婚する前 (無回答 12)

1. 働いていなかった 1.9% 2. フルタイムで就業 86.9%  
3. パートタイムで就業 7.7% 4. 自営業で就業 3.5%

(2) 結婚直後 (無回答 14)

1. 働いていなかった 29.6% 2. フルタイムで就業 49.7%  
3. パートタイムで就業 16.2% 4. 自営業で就業 4.4%

(3) 最初の子どもを出産した1年後 (無回答 39)

1. 働いていなかった 70.3% 2. フルタイムで就業 19.6%  
3. パートタイムで就業 4.9% 4. 自営業で就業 5.2%

→利用した制度すべてに○を  
してください(非該当 1503 無回答 6)

1. 産前・産後休業制度 85.6%  
2. 育児休業制度 75.6%  
3. 育児時間短時間勤務制度 37.7%  
4. どれも利用しなかった 10.8%

問 33 あなたは仕事をする事について、現在どのようにお考えですか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(無回答 24)

1. できればフルタイムで働きたい(働き続けたい) 27.0%  
2. できればパートタイムで働きたい(働き続けたい) 43.6%  
3. できれば自営業で働きたい(働き続けたい) 12.5%  
4. できれば仕事は持ちたくない 16.8%

→16 ページの問 35 へ

問 34 現在働いている方と、これから働くことを希望なさっている方にお聞きします。あなたが仕事を続けている理由、あるいはこれから仕事をしたい理由は何ですか。もっとも近い番号にひとつだけ○をつけてください。(非該当 331・無回答 17)

(○はひとつだけ)

1. 働けるのが自分ひとりだから 4.6%  
2. 夫の収入だけでは、生活できないから 9.4%  
3. 増大する家計(教育費、住宅費など)に対応するため 30.3%  
4. 将来に備えて貯蓄するため 8.4%  
5. 自分自身の収入を確保するため 10.8%  
6. 心の健康や張りあいのため 14.5%  
7. 自己実現のため 11.0%  
8. 社会との繋がりを確保し、社会に貢献するため 11.2%

問 35 あなたの夫のお仕事についてお聞きします。夫がいらっしゃる場合、あるいは夫がお仕事をなさっていない場合は、問 36 にお進みください。

(1) あなたの夫のお勤め先(会社)全体では、おおよそ何人くらいの人が働いていますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(非該当 99・無回答 49)

1. 1人(従業員なし) 5.8% 2. 2~29人 20.4% 3. 30~299人 21.4%  
4. 300~999人 12.1% 5. 1000人以上 34.9% 6. 官公庁 5.5%

(2) あなたの夫のお仕事は、雇用期間がどのように定められていますか。(非該当 99・無回答 101)

1. 雇用期間を特に定めなかつた雇用の雇用 94.8%  
2. 1年を超え5年以内の雇用期間を定めての雇用 2.4%  
3. 1ヵ月を超え1年以内の雇用期間を定めての雇用 2.5%  
4. 1ヵ月以内の雇用期間を定めての雇用(日雇いを含む) 0.3%

(3) あなたの夫の1週間の合計労働時間はどのくらいですか(残業時間も含みます。わからない場合には、おおよそでお答えください)。(非該当 99・無回答 89)

平均 58.9 時間

(4) あなたの夫のお勤め先まで、ご自宅からどれくらい時間がかかりますか。普段利用している交通手段でかかる時間(分)をお答えください(勤務先がご自宅の場合は「0」分とご記入ください)。(非該当 99・無回答 44)

平均 46.9 分

(5) あなたの夫はお勤め先からの帰宅時間が、午後9時以降になる日は、週にどのくらいありますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(非該当 99・無回答 46)

1. ほぼ毎日 44.4% 2. 週に4日くらい 12.2% 3. 週に3日くらい 11.6%  
4. 週に2日くらい 8.0% 5. 週に1日くらい 8.4% 6. めったにない 15.4%

(6) あなたの夫は、初めて職についてから、何回転職しましたか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。(非該当 99・無回答 41)

1. 一度も転職していない 53.2% 2. 1回転職した 20.7% 3. 2回転職した 11.8%  
4. 3回転職した 6.4% 5. 4回転職した 3.3% 6. 5回以上転職した 4.5%

問 36 あなたご自身のお仕事についてお聞きします。現在働いている方のみ、お答えください。

- (1) あなたは、今のお勤め先あるいは自営業の仕事で、何年働いていらっしゃいますか（6ヶ月以上の場合は1年、6ヶ月未満の場合は0年として計算してください。例えば、3年4ヶ月の場合は「3」年、3年7ヶ月の場合は「4」年とご記入ください）。（非該当 967・無回答 51）

平均  
7.1 年

- (2) あなたのお勤め先（会社）全体では、おおよそ何人くらいの人が働いていますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。（非該当 967・無回答 53）

1. 1人（従業員なし）7.2% 2. 2～29人32.4% 3. 30～299人23.3%  
4. 300～999人10.7% 5. 1000人以上20.4% 6. 官公庁5.9%

- (3) あなたのお仕事は、雇用期間がどのように定められていますか。（非該当 967・無回答 71）

1. 雇用期間を特に定めなにかたちの雇用78.0%  
2. 1年を超え5年以内の雇用期間を定めての雇用4.0%  
3. 1ヵ月を超え1年以内の雇用期間を定めての雇用17.1%  
4. 1ヵ月以内の雇用期間を定めての雇用（日雇いを含む）0.8%

- (4) あなたの1週間の合計労働時間はどのくらいですか（残業時間も含まれます）。（非該当 967・無回答 66）

選 平均  
31.2 時間

- (5) あなたのお勤め先は、世田谷区内ですか。（非該当 967・無回答 66）

1. はい50.5%  
2. いいえ49.5%

- (6) あなたのお勤め先まで、ご自宅からどれくらい時間がかかりますか。普段利用している交通手段でかかる時間（分）をお答えください（勤務先がご自宅の場合は「0」分とご記入ください）。（非該当 967・無回答 53）

平均  
30.1 分

- (7) あなたはお勤め先からの帰宅時間が、午後9時以降になる日は、週にどのくらいありますか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。（非該当 967・無回答 53）

1. ほぼ毎日1.6% 2. 週に4日くらい1.2% 3. 週に3日くらい2.5%  
4. 週に2日くらい3.9% 5. 週に1日くらい5.6% 6. めったにない85.2%

- (8) あなたのお勤め先には以下のような制度や施設がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。いずれの制度・施設もない場合は、「14.制度・施設はない」に○をつけてください。（非該当 967・無回答 74）

1. 出産休業（産休）48.8% 2. 育児休業（育休）45.6% 3. 介護休業30.3% 4. 看護休暇21.8%  
5. 半日有給休暇34.2% 6. 事業所内保育施設4.8% 7. 契約保育施設2.3% 8. 短時間労働24.2%  
9. フレックスタイム12.1% 10. 在宅勤務6.6% 11. 再雇用13.5% 12. 地域限定勤務4.1%  
13. フルタイムとパートタイムの転換11.9% 14. 制度・施設はない17.4%

- (9) あなたは初めて職についてから、何回転職しましたか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をつけてください。（非該当 967・無回答 48）

1. 一度も転職していない27.7% 2. 1回転職した20.4% 3. 2回転職した17.4%  
4. 3回転職した13.0% 5. 4回転職した9.3% 6. 5回以上転職した12.2%

以上で質問は終わりです。

調査にご協力いただき、まことにありがとうございました。